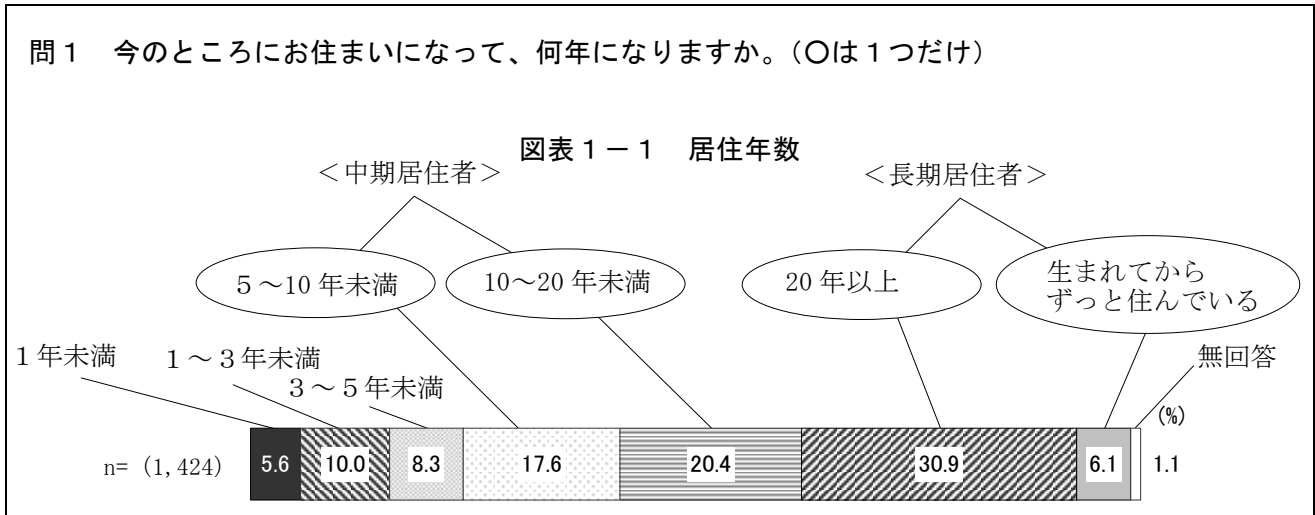


## ② 第2回アンケートの結果

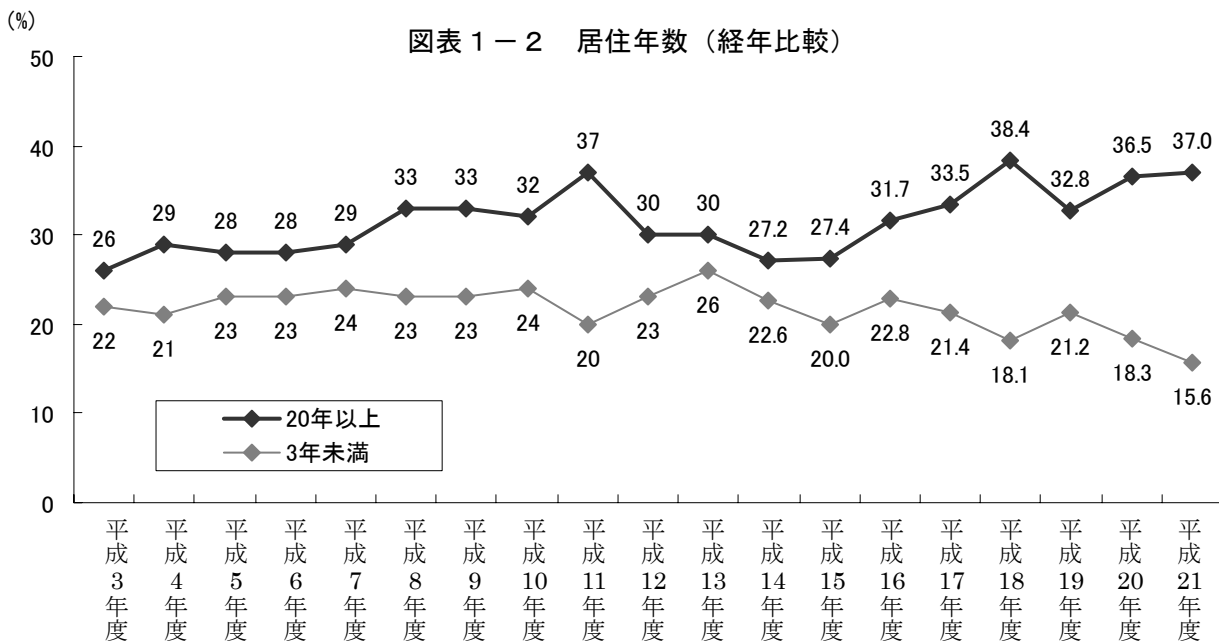
# 1 定住状況について

## 1-1 居住年数

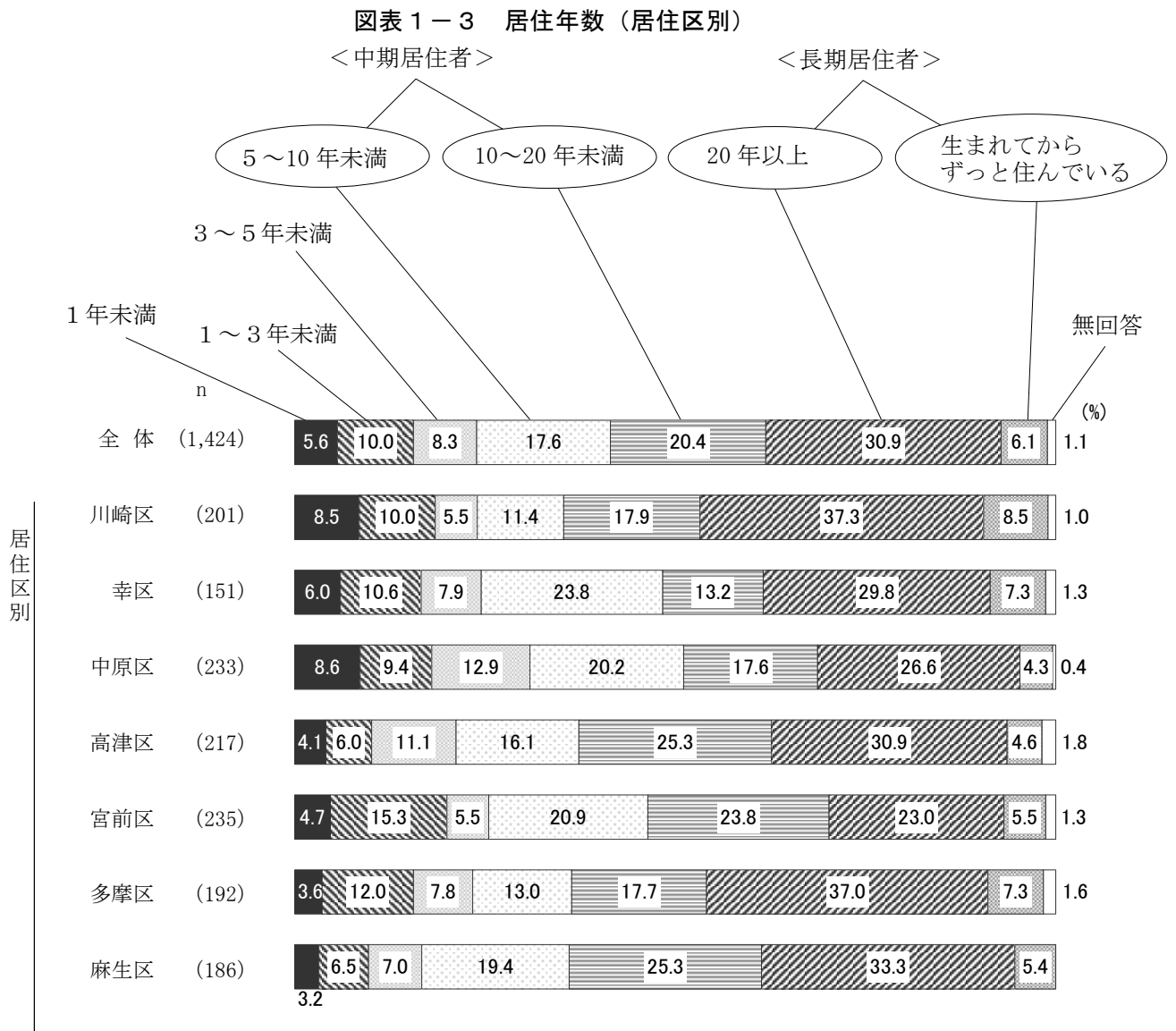
◎20年以上の<長期居住者>が37.0%



居住年数は、「20年以上」(30.9%)が最も多く、これに「生まれてからずっと住んでいる」(6.1%)をあわせた<長期居住者>は37.0%、「5~10年未満」(17.6%)と「10~20年未満」(20.4%)をあわせた<中期居住者>は38.0%となっている。(図表1-1)



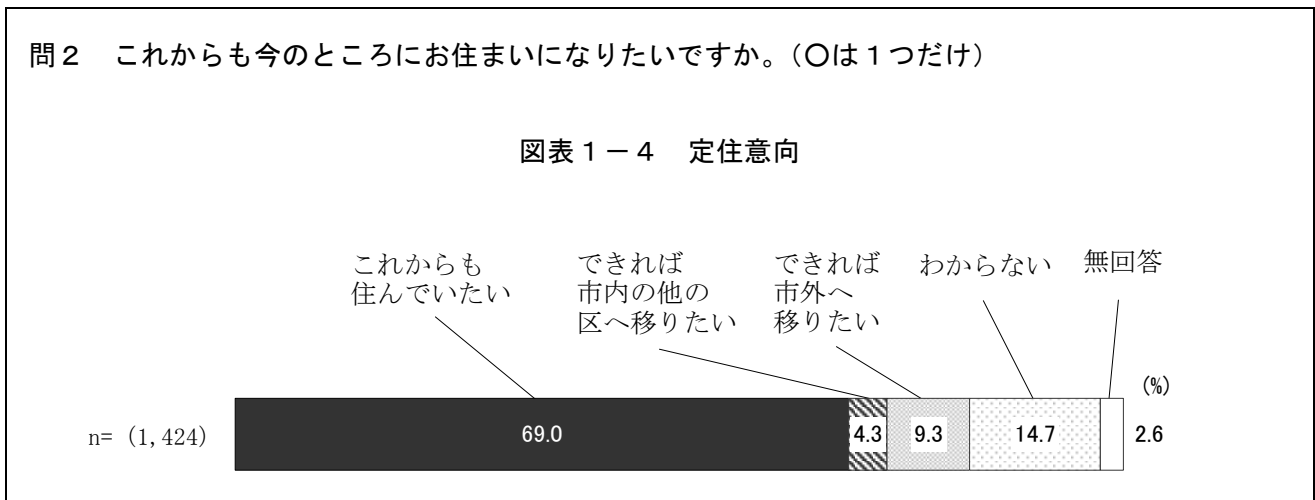
過去の推移では、平成20年度と比較すると、<長期居住者>は、36.5%から37.0%へ0.5ポイント増加している。「3年未満」は、18.3%から15.6%へと2.7ポイント減少し、「20年以上」と「3年未満」の割合の差が21.4ポイントで多くなっている。(図表1-2)



居住区別では、<長期居住者>は、川崎区が 45.8%で最も多く、次いで多摩区が 44.3%となっている。「3年未満」は、宮前区が 20.0%で最も多くなっている。(図表 1-3)

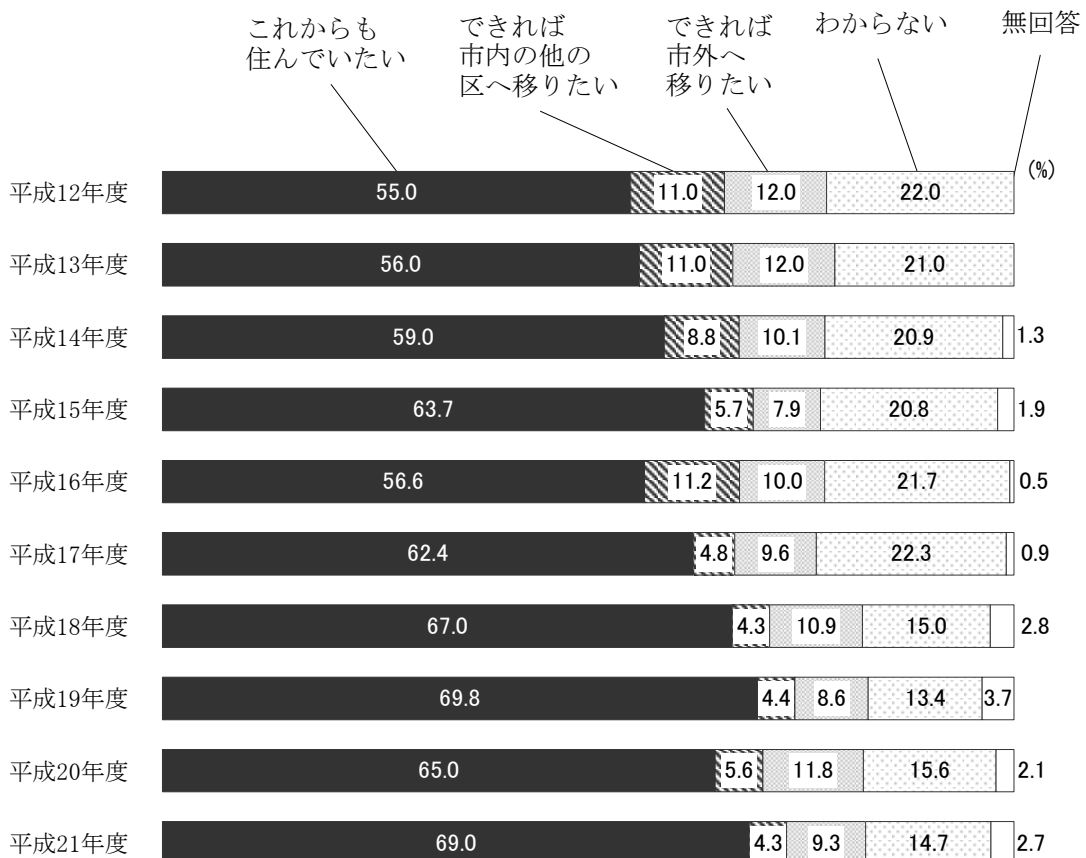
## 1-2 定住意向

◎「これからも住んでいたい」が69.0%



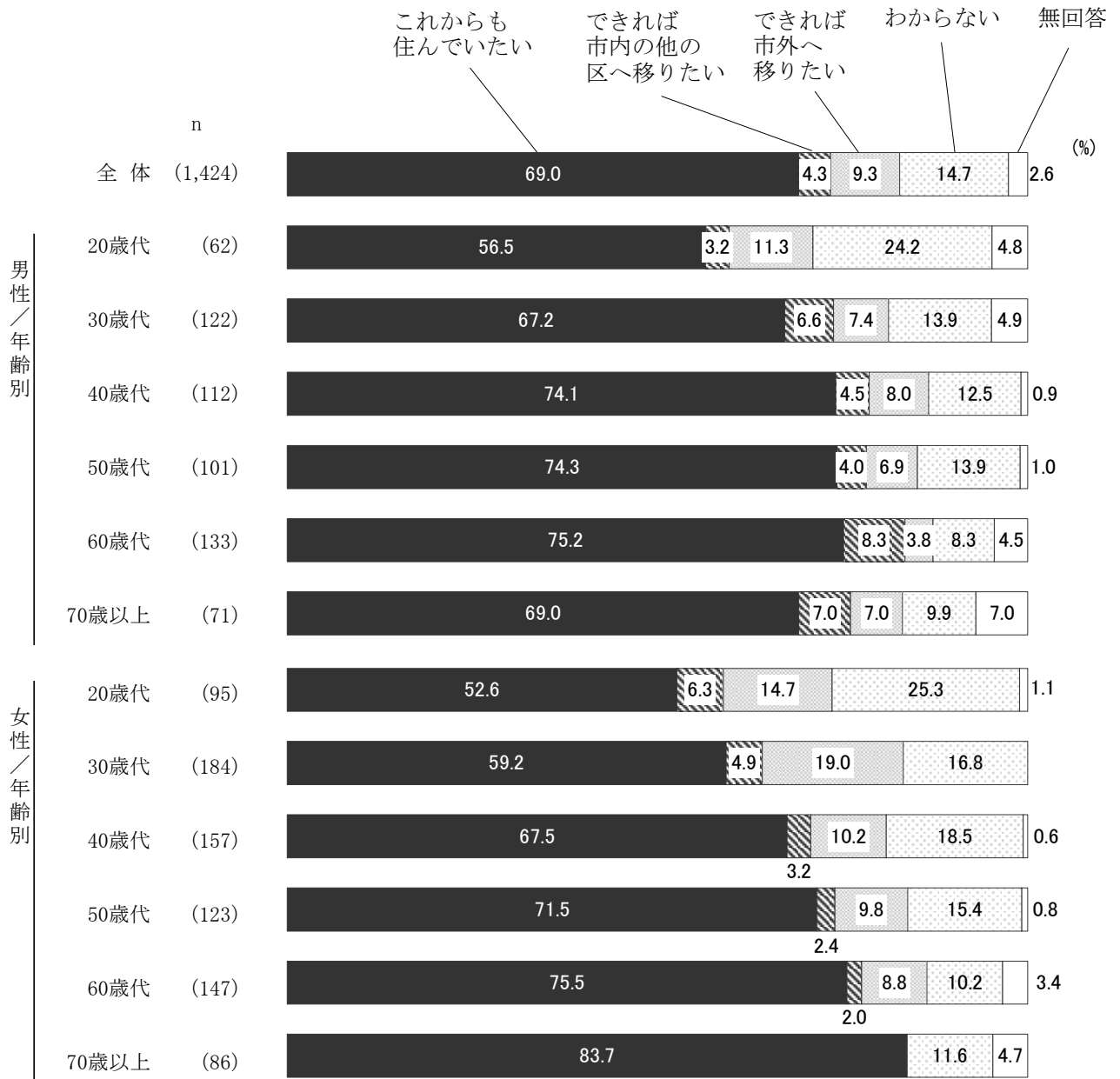
定住意向は、「これからも住んでいたい」は69.0%、「できれば市外へ移りたい」は9.3%となっている。(図表1-4)

図表1-5 定住意向(経年比較)



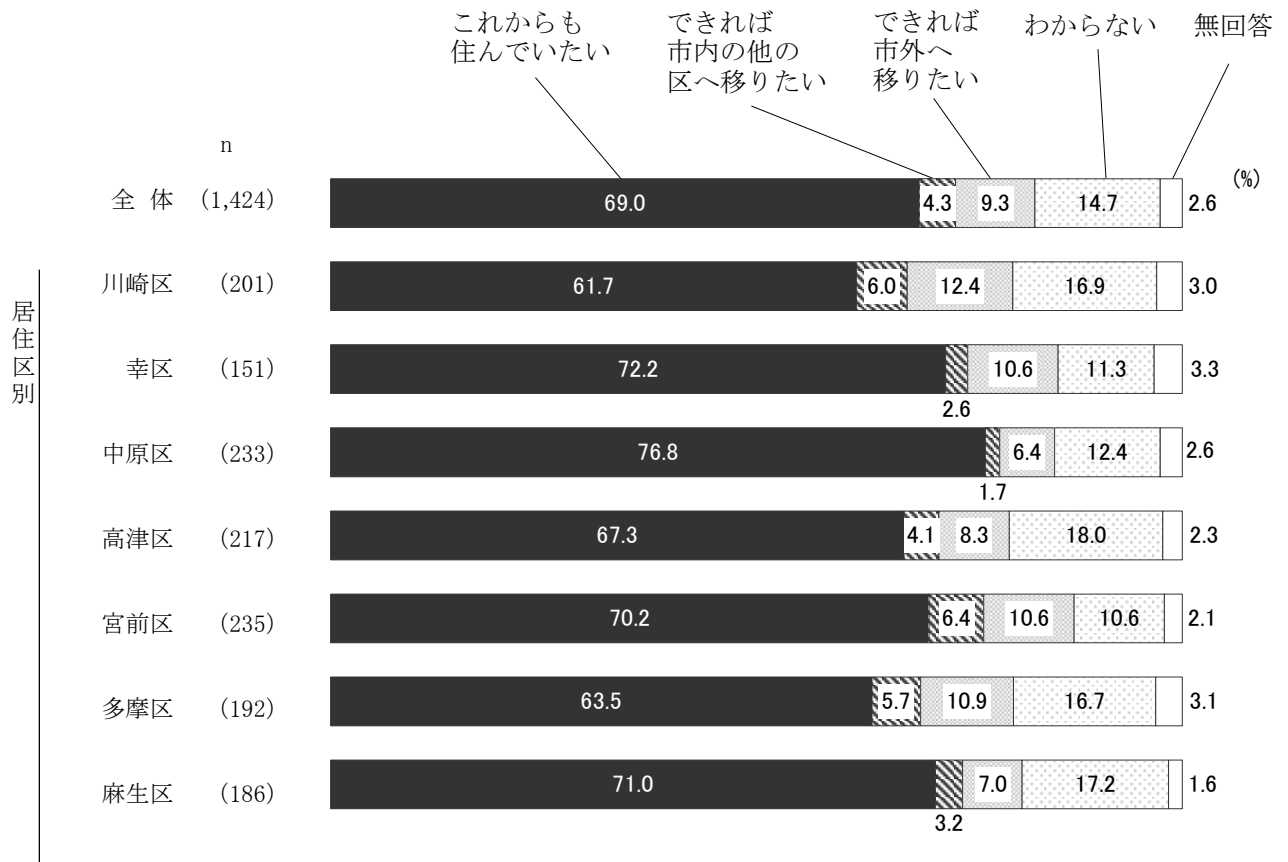
「これからも住んでいたい」は、平成17年度以降は6割台で推移しており、「できれば市内の他の区へ移りたい」をあわせた市内在住意向は約7割となっている。(図表1-5)

図表1-6 定住意向(性/年齢別)



性/年齢別では、「これからも住んでいたい」は、男女ともに年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっており、女性の70歳以上で8割台半ばとなっている。(図表1-6)

図表 1-7 定住意向 (居住区別)



居住区別では、「これからも住んでいたい」は、中原区が7割台半ば、幸区、宮前区、麻生区が7割台前半で多くなっている。(図表1-7)

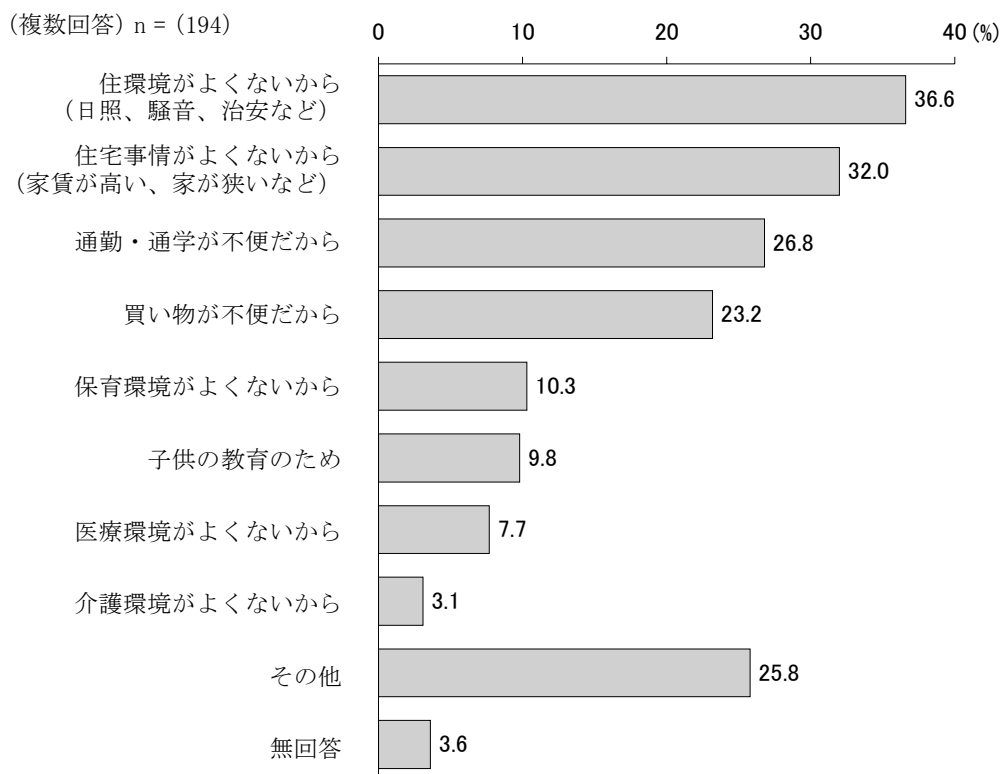
### 1-3 転居意向の理由

◎「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」が36.6%、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」が32.0%

(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

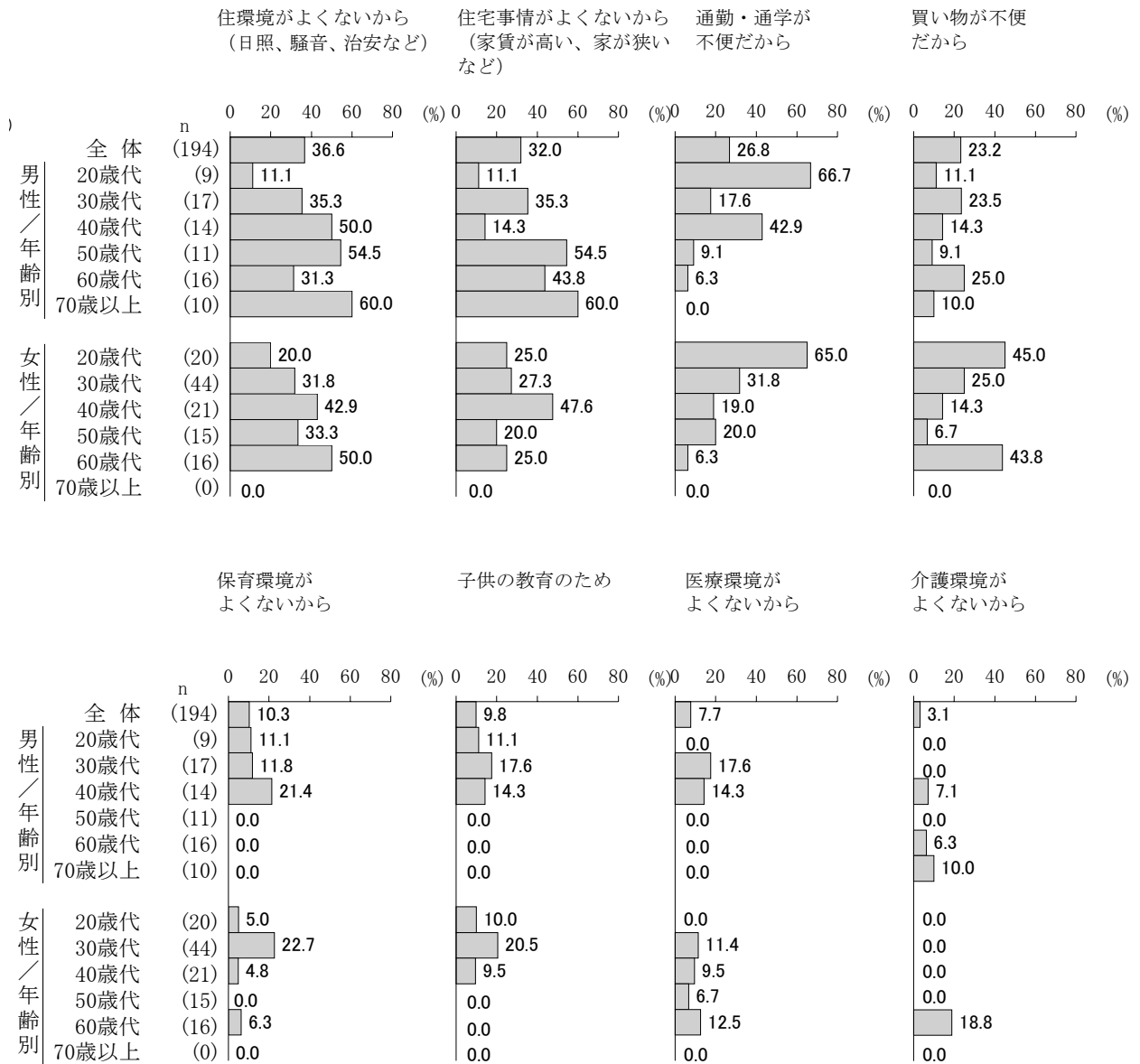
問3 今のところから移りたい、または移る理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表1-8 転居意向の理由



転居意向の理由は、「住環境がよくないから（日照、騒音、治安など）」(36.6%)、「住宅事情がよくないから（家賃が高い、家が狭いなど）」(32.0%)が多くなっている。以下「通勤・通学が不便だから」(26.8%)、「買い物が不便だから」(23.2%)が続いている。(図表1-8)

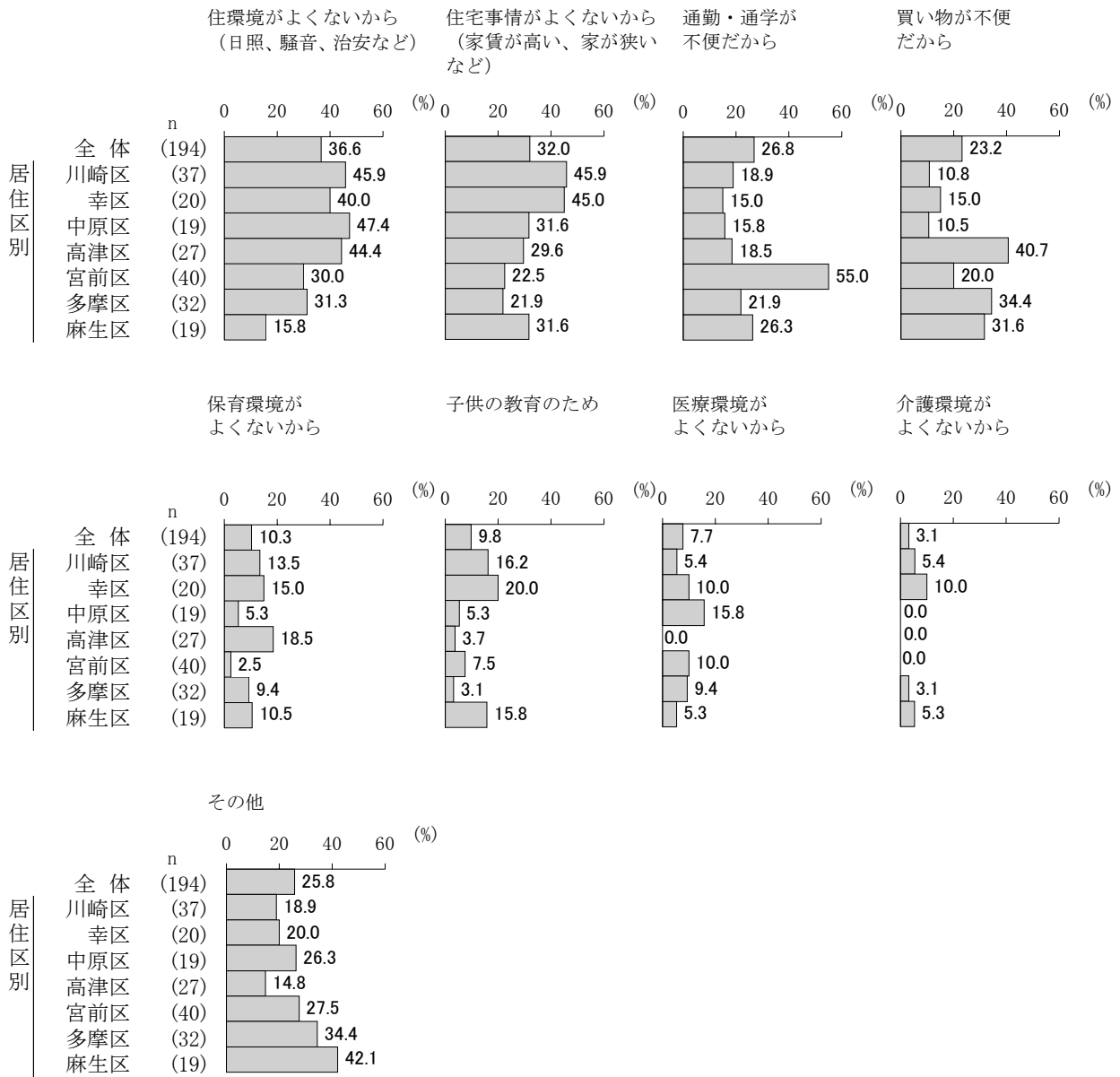
図表1-9 転居意向の理由(性/年齢別、上位8項目)



※性/年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-9)



図表1-10 転居意向の理由(居住区別)



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-10)

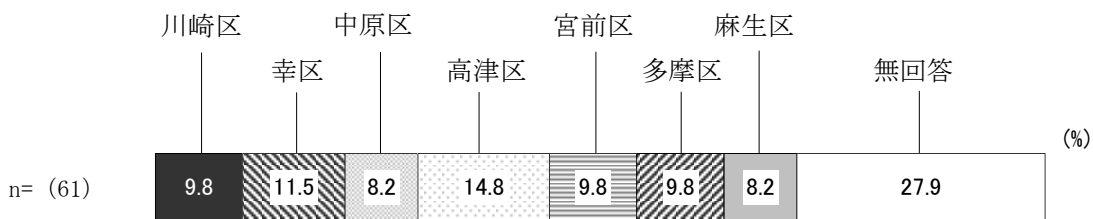
## 1-4 転居先の希望

◎市内では「高津区」14.8%、市外では「東京23区」39.1%が多い

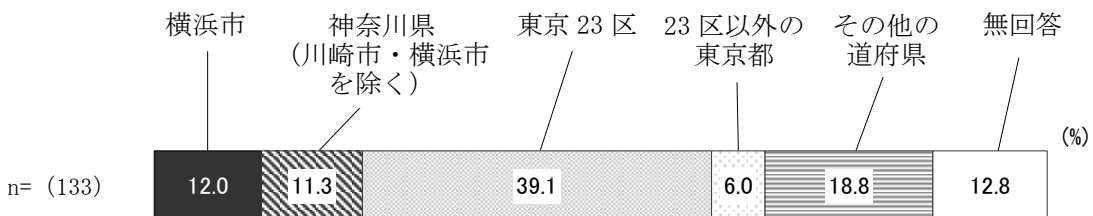
(問2で「2 できれば市内の他の区へ移りたい」「3 できれば市外へ移りたい」と答えた方にうかがいます。)

問4 どこに住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図表1-11 転居先の希望(市内)



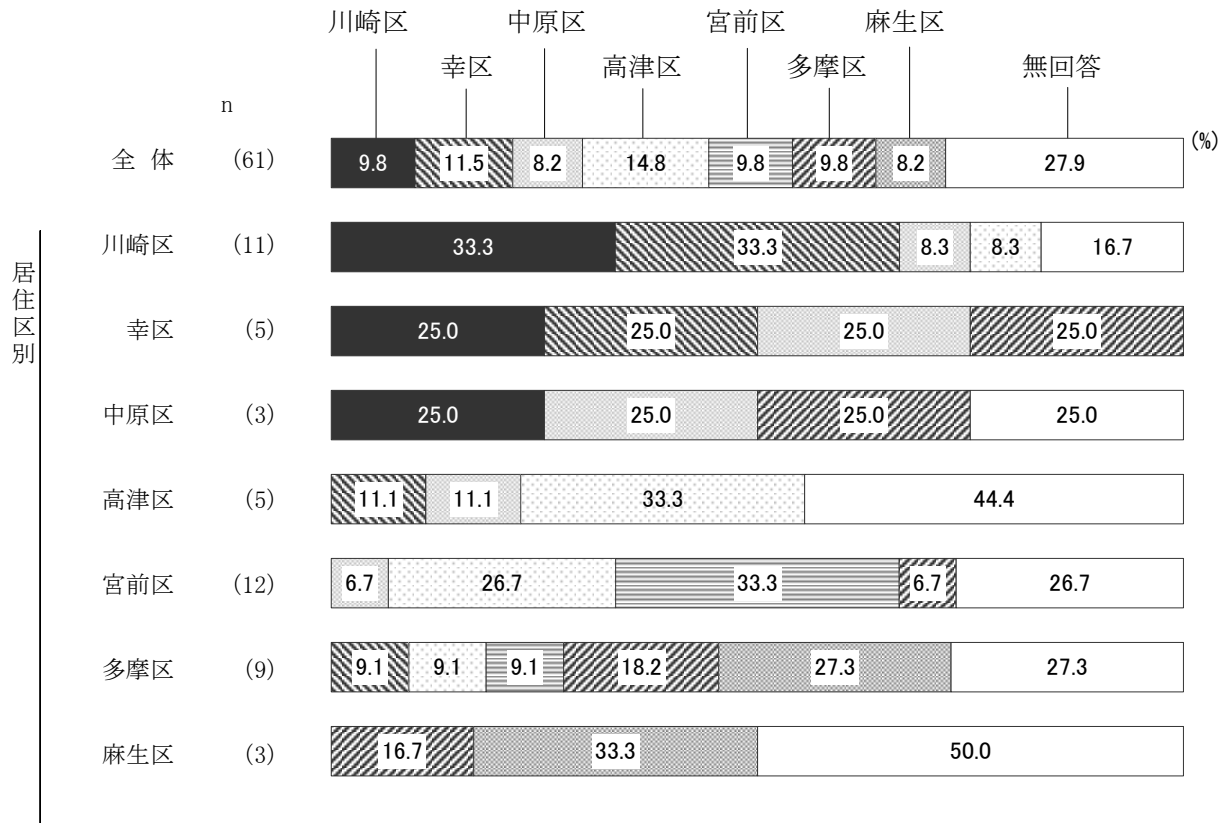
図表1-12 転居先の希望(市外)



転居先の希望(市内)は、「高津区」(14.8%)が最も多くなっている。(図表1-11)。

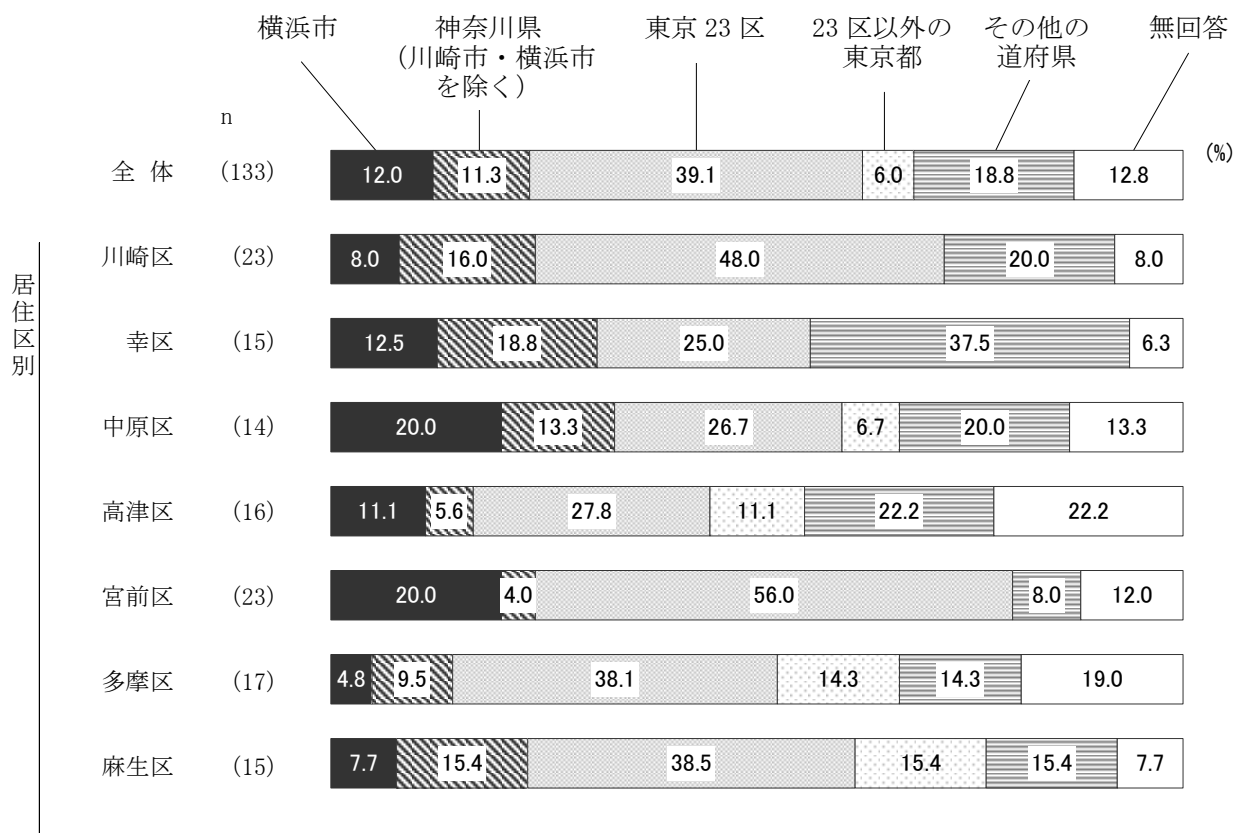
転居先の希望(市外)は、「東京23区」(39.1%)が最も多く、「その他の道府県」(18.8%)、「横浜市」(12.0%)、「神奈川県(川崎市・横浜市を除く)」(11.3%)と続いている。(図表1-12)

図表 1-13 転居先の希望 (市内、居住区別)



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表 1-13)

図表1-14 転居先の希望(市外、居住区別)



※居住区別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。(図表1-14)

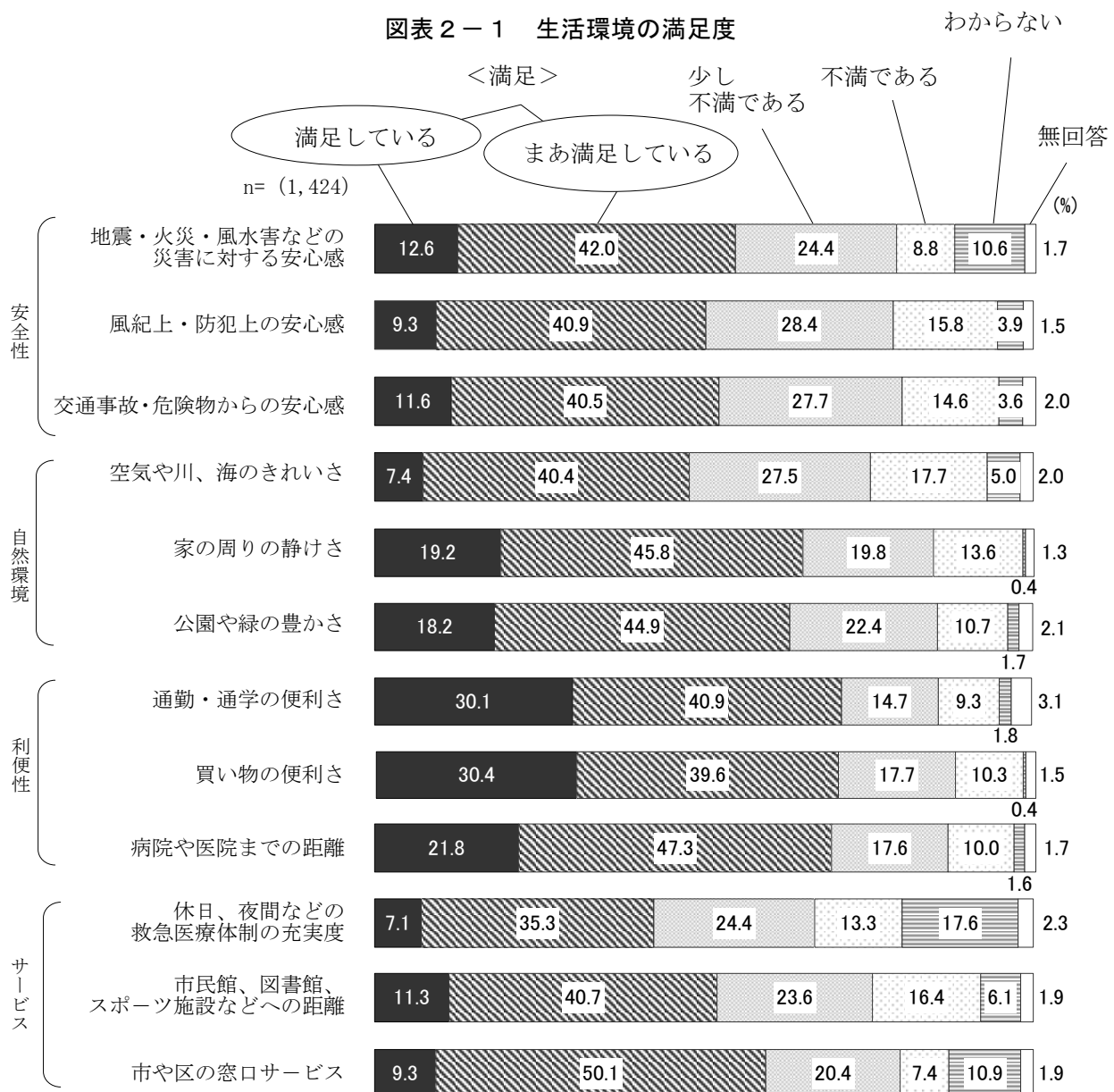
## 2 生活環境の評価について

### 2-1 生活環境の満足度

◎<満足>が多いのは、「通勤・通学の便利さ」で71.0%、「買い物の便利さ」で70.0%

問5 お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。

次にあげる項目についてどの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)



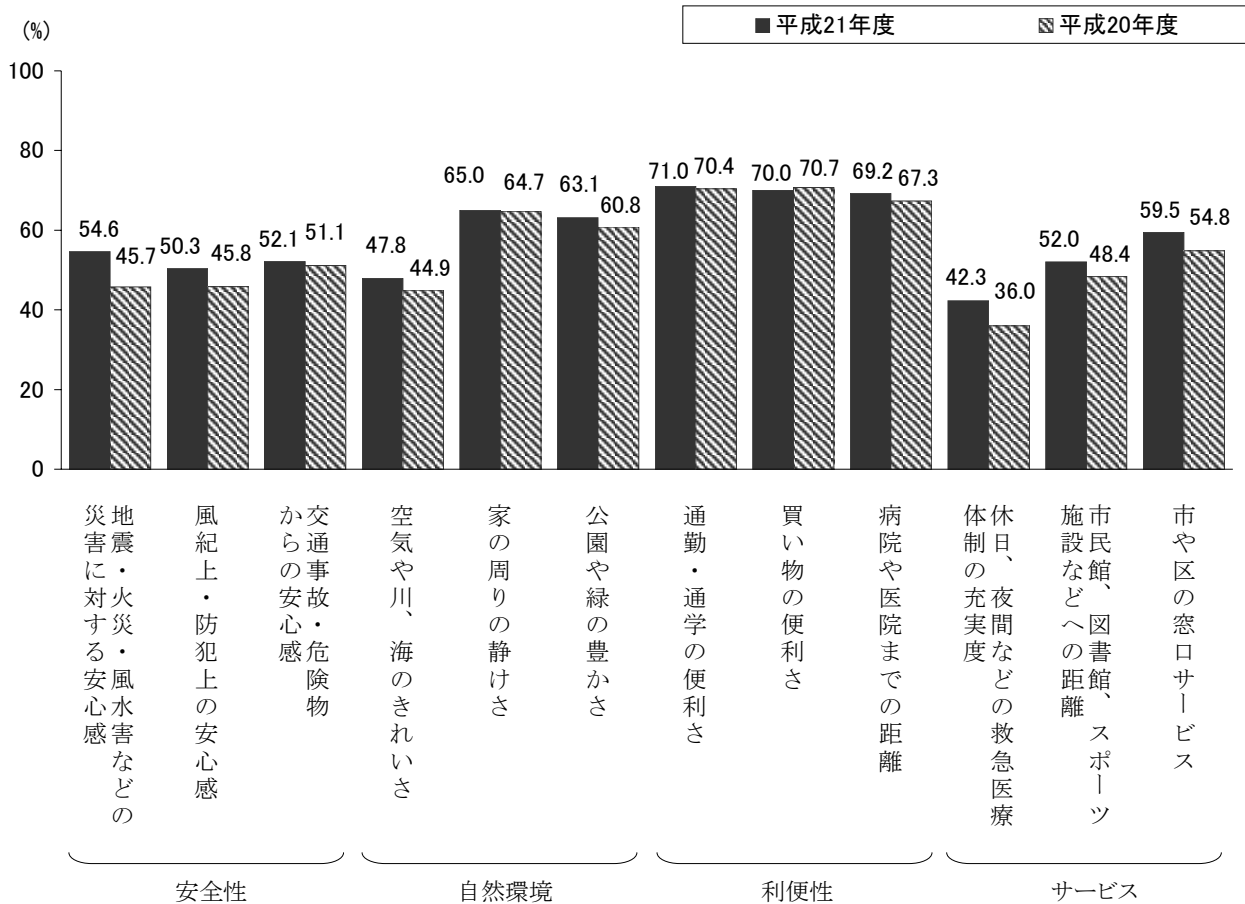
生活環境について、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>が多いのは、「通勤・通学の便利さ」(71.0%)、「買い物の便利さ」(70.0%)、「病院や医院までの距離」(69.1%)などの「利便性」となっている。一方、満足が最も少ないのは、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(42.4%)となっている。(図表2-1)

図表 2-2 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、経年比較)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

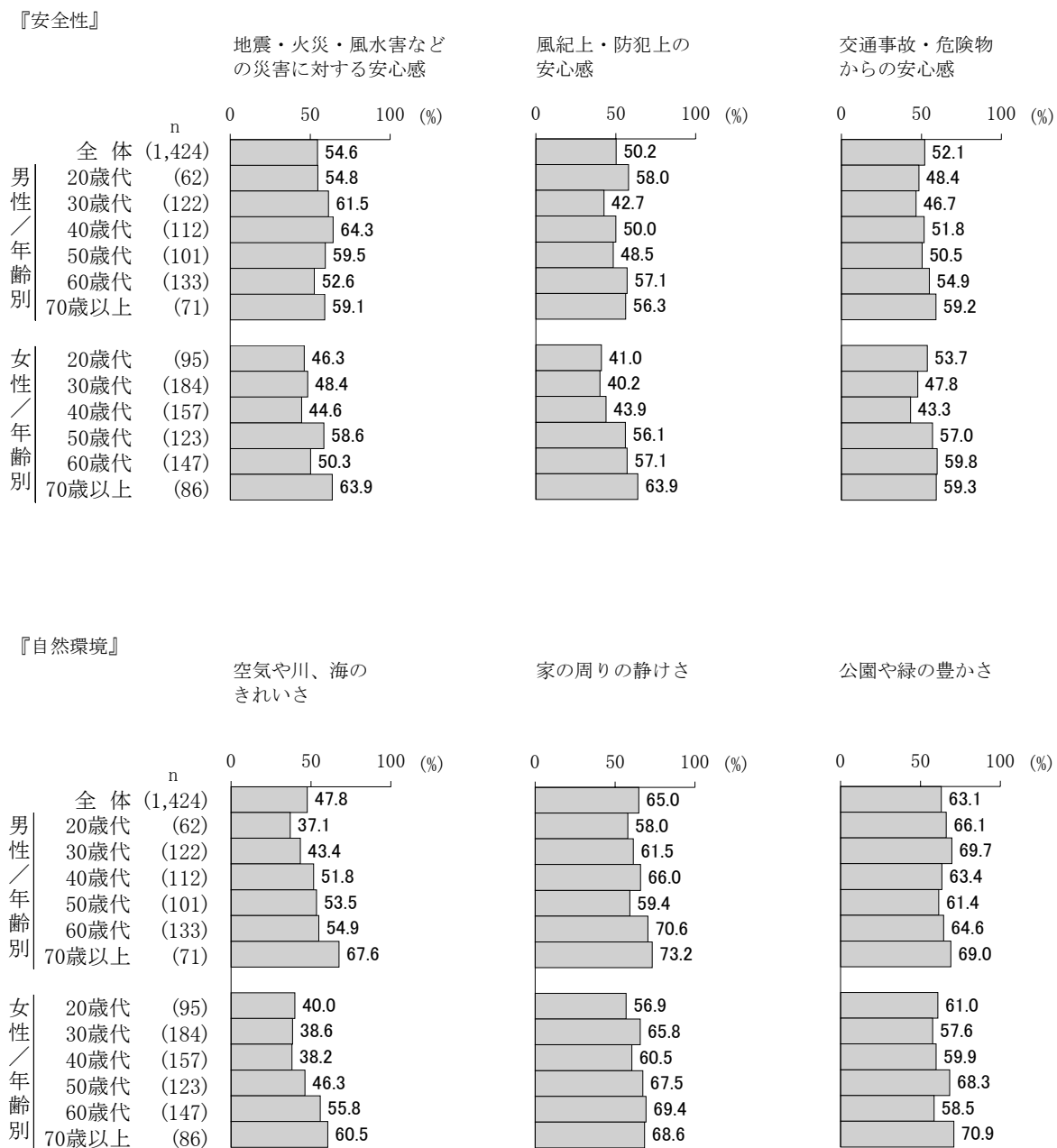
(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
21年度	54.6	50.3	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.2	42.3	52.0	59.5
20年度	45.7	45.8	51.1	44.9	64.7	60.8	70.4	70.7	67.3	36.0	48.4	54.8



平成 20 年度と比較すると、満足度は、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」(54.6%) は 8.9 ポイント、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(42.3%) は 6.3 ポイントなど、「買い物の便利さ」(70.0%) を除く全ての項目で増加している。(図表 2-2)

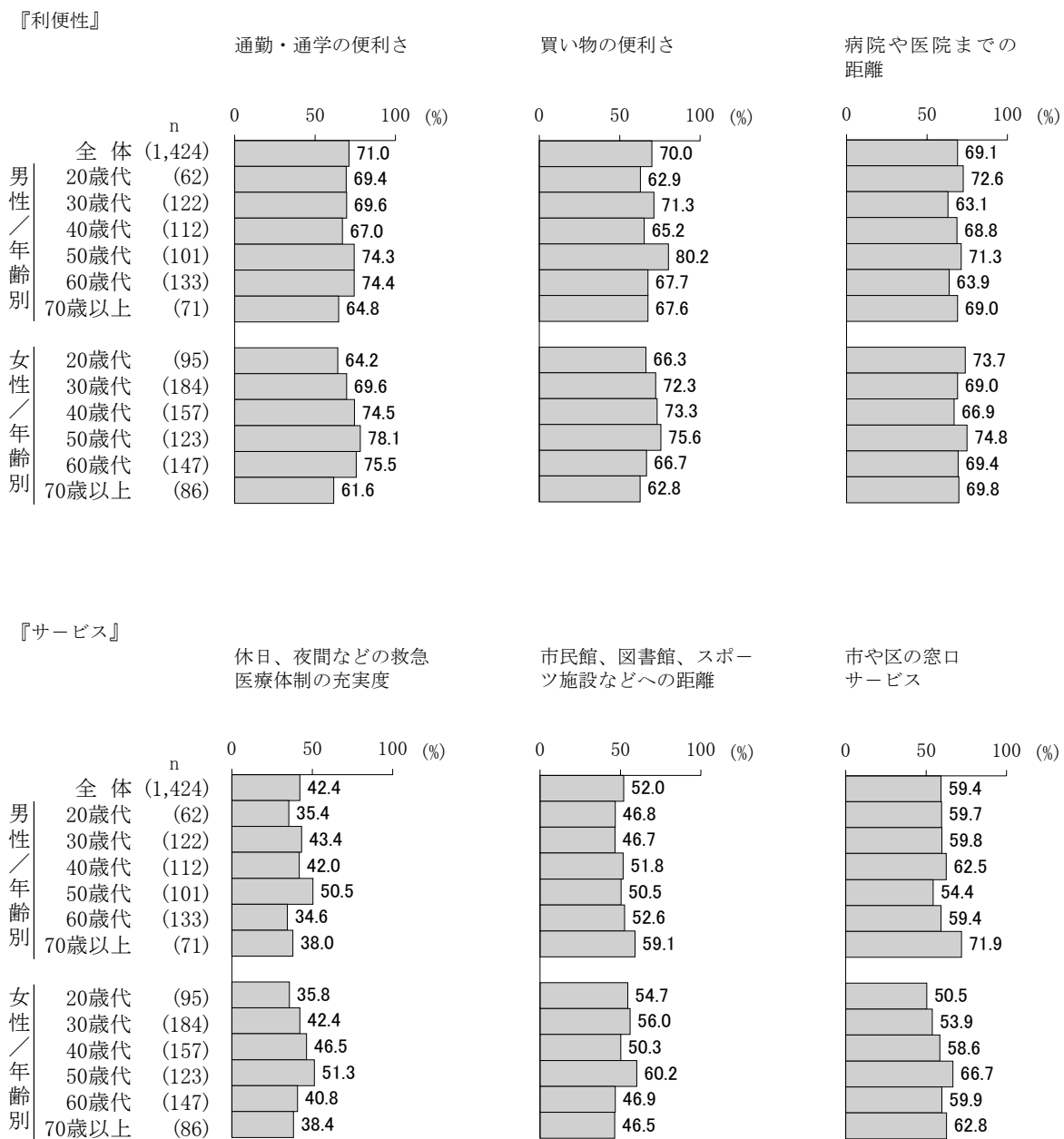
図表2-3 生活環境の満足度 (<満足>、性/年齢別)



性/年齢別で満足度をみると、『安全性』では、「地震・火災・風水害などの災害に対する安心感」が最も多くなっている。一方、「風紀上・防犯上の安心感」は、女性の20歳代から40歳代で4割台と少なくなっている。

『自然環境』では、「家の周りの静けさ」が最も多くなっており、男女とも60歳代以上で7割台となっている。一方、「空気や川、海のきれいさ」は、男女とも20歳代、30歳代で3割台から4割台と少なくなっている。(図表2-3)

図表2-4 生活環境の満足度（＜満足＞、性／年齢別）



『利便性』では、「通勤・通学の便利さ」、「買い物の便利さ」、「病院や医院までの距離」のいずれも、男女ともに全ての年代で6割台から8割台と多くなっている。

『サービス』では、「市や区の窓口のサービス」が最も多くなっている。一方、「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」は、男女とも50歳代で5割台前半であるが、その他の年齢では少なくなっている。(図表2-4)

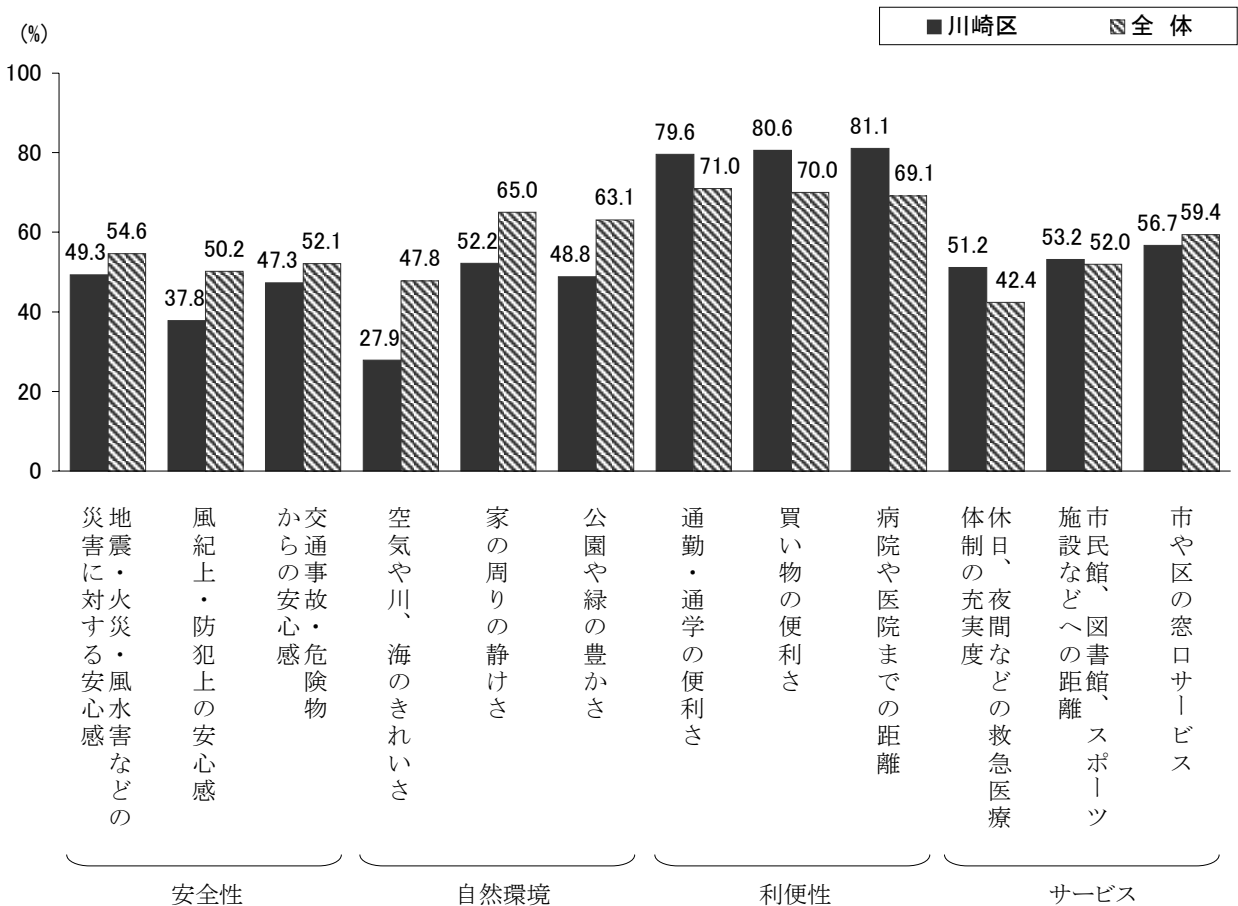


図表 2-5 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、川崎区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
川崎区	49.3	37.8	47.3	27.9	52.2	48.8	79.6	80.6	81.1	51.2	53.2	56.7
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



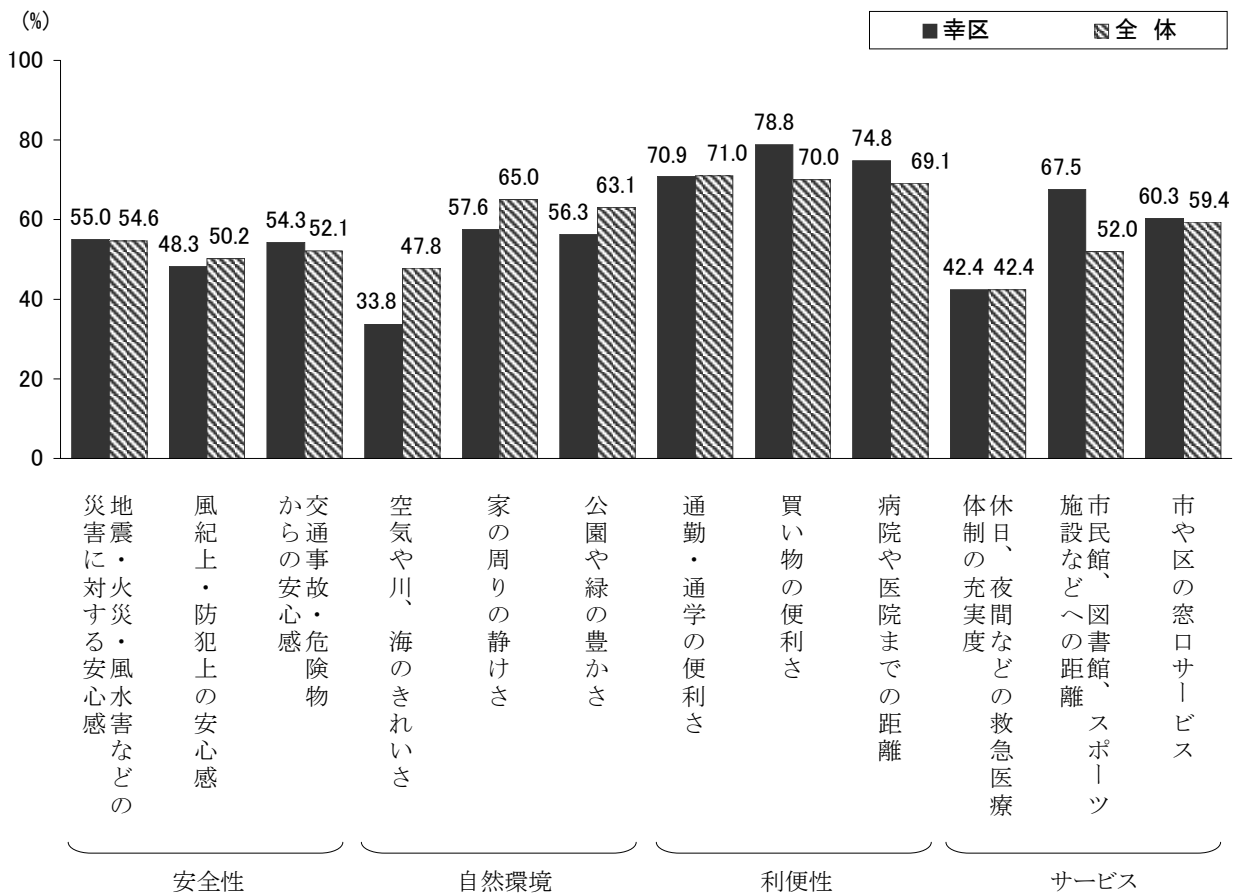
川崎区の生活環境満足度は、『利便性』では、市全体の満足度を上回り、特に「買い物の便利さ」(80.6%)、「病院や医院までの距離」(81.1%)が10ポイント以上上回っている。一方、『安全性』、『自然環境』では、市全体の満足度を下回り、「空気や川、海のきれいさ」(27.9%)では、約20ポイント下回っている。また、「風紀上・防犯上の安心感」(37.8%)、「家の周りの静けさ」(52.2%)、「公園や緑の豊かさ」(48.8%)でも、10ポイント以上下回っている。(図表2-5)

図表 2-6 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、幸区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
幸区	55.0	48.3	54.3	33.8	57.6	56.3	70.9	78.8	74.8	42.4	67.5	60.3
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



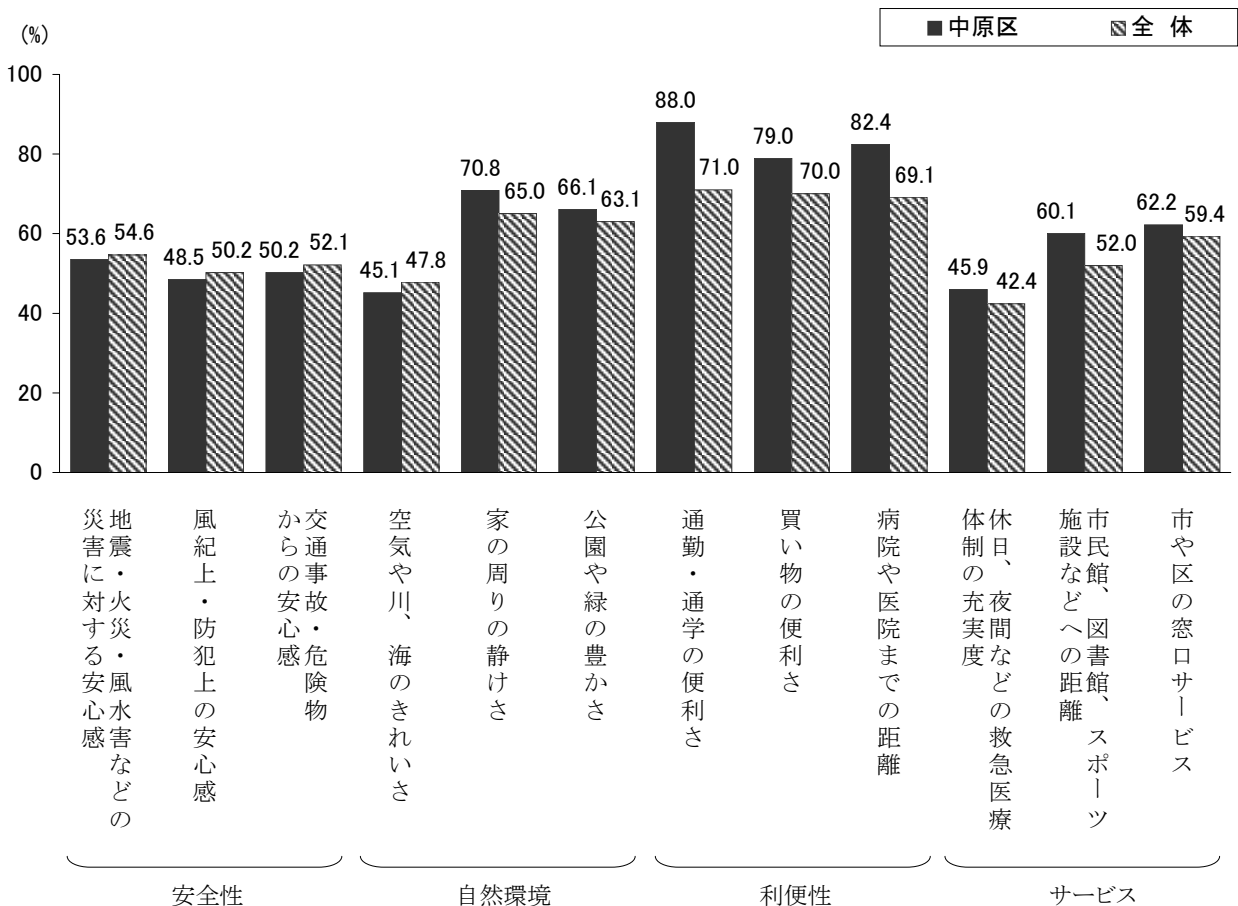
幸区の生活環境満足度は、『安全性』では、市全体の満足度とほぼ同じとなっている。一方、『自然環境』では、市全体の満足度を下回り、「空気や川、海のきれいさ」(33.8%)で10ポイント以上下回っている。(図表2-6)

図表2-7 生活環境の満足度（＜満足＞、中原区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
中原区	53.6	48.5	50.2	45.1	70.8	66.1	88.0	79.0	82.4	45.9	60.1	62.2
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



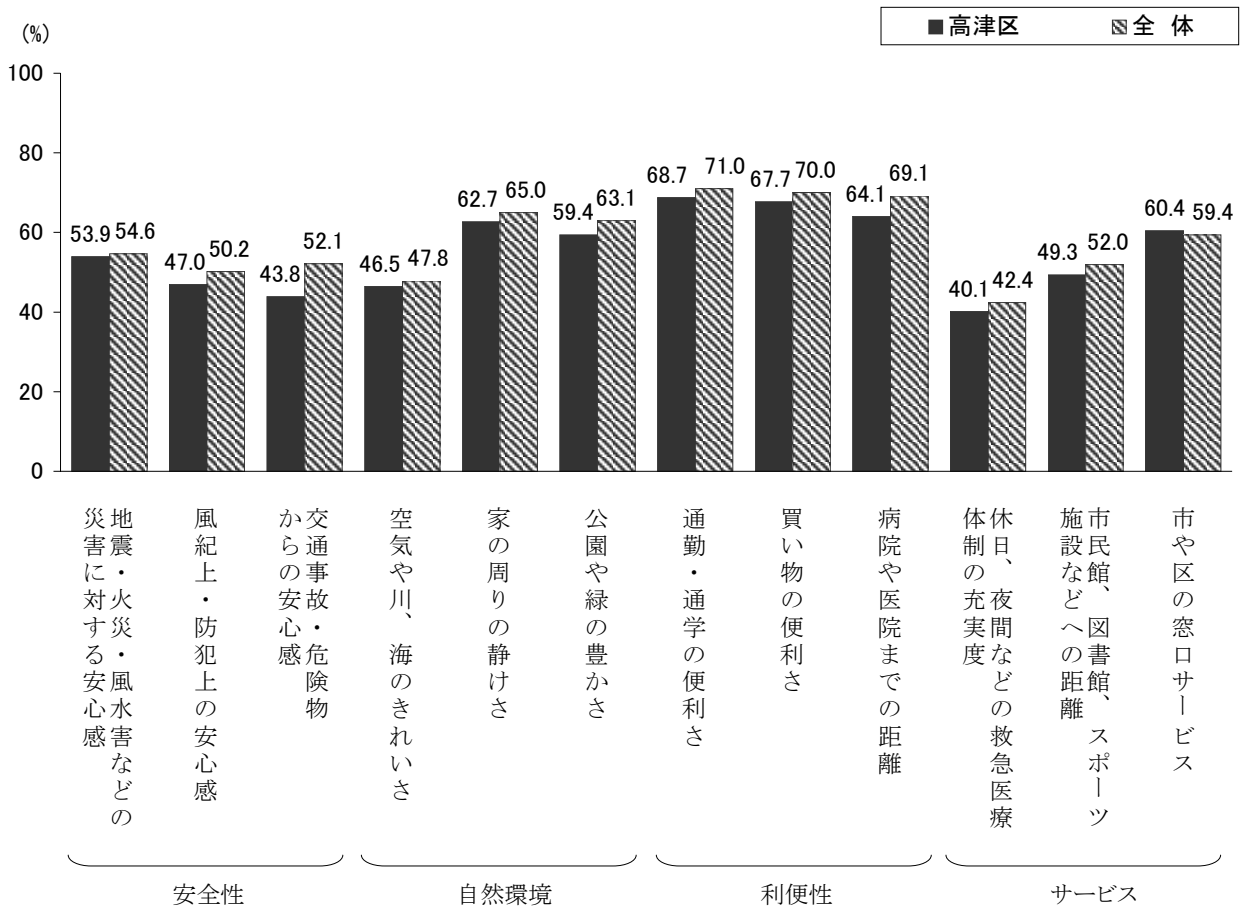
中原区の生活環境満足度は、『利便性』、『サービス』で市全体の満足度を上回り、「通勤・通学の便利さ」(88.0%)が17ポイント上回っている。一方、『安全性』では、市全体の満足度を下回っている。(図表2-7)

図表2-8 生活環境の満足度（＜満足＞、高津区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
高津区	53.9	47.0	43.8	46.5	62.7	59.4	68.7	67.7	64.1	40.1	49.3	60.4
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



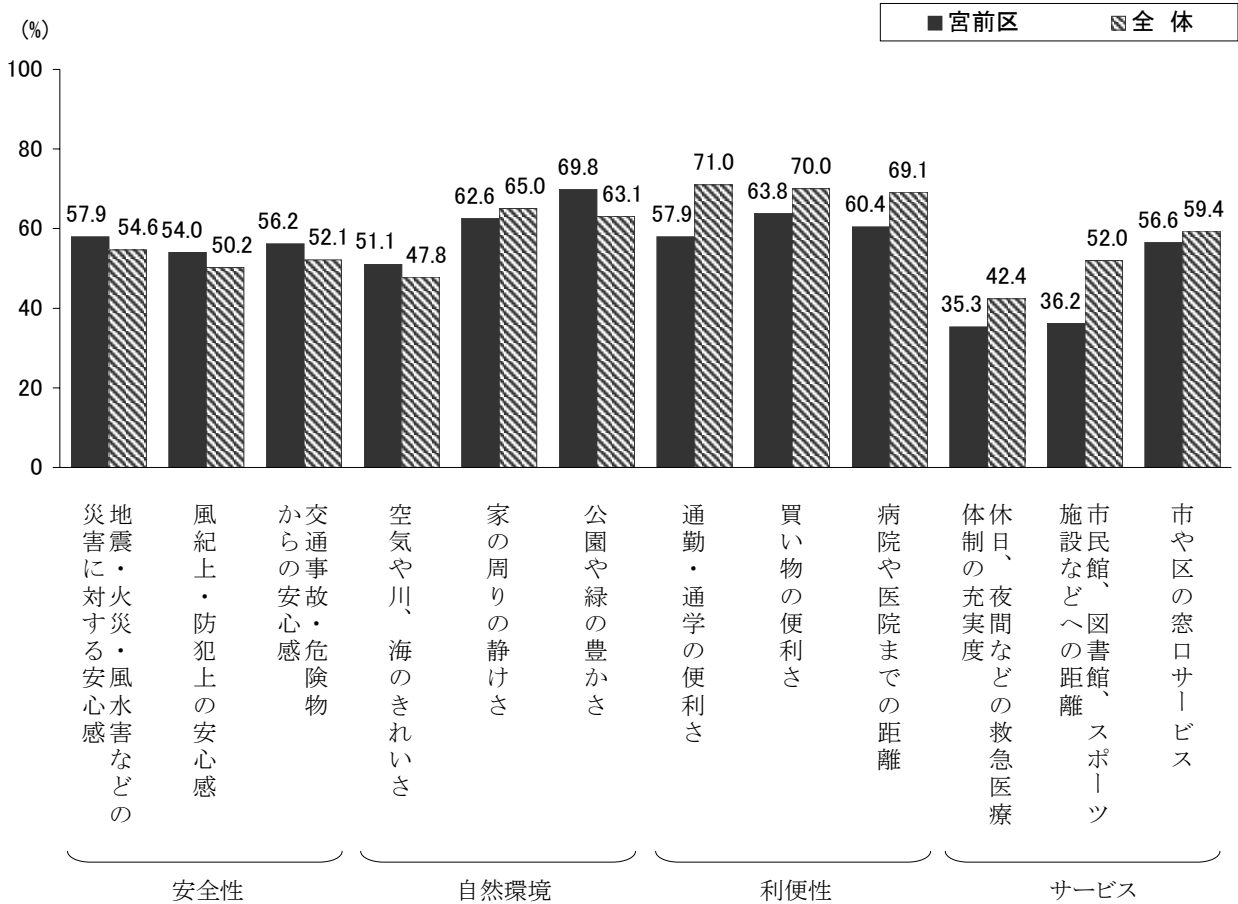
高津区の生活環境満足度は、市全体の満足度と比べて下回る項目が多く、『サービス』の「市や区の窓口サービス」(60.4%)を除く、全ての項目で市全体の満足度を下回っている。(図表2-8)

図表 2-9 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、宮前区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
宮前区	57.9	54.0	56.2	51.1	62.6	69.8	57.9	63.8	60.4	35.3	36.2	56.6
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



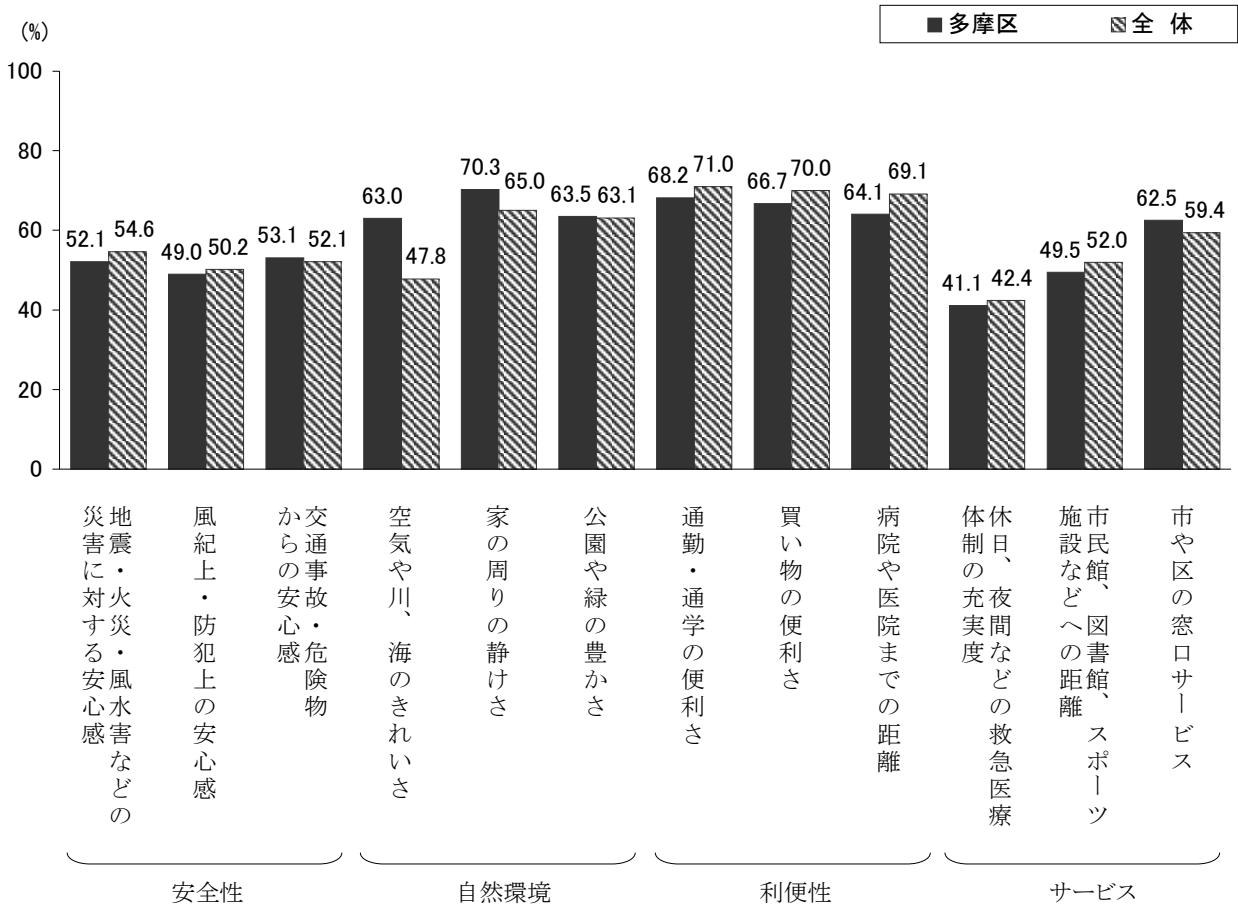
宮前区の生活環境満足度は、『安全性』で市全体の満足度を上回っている。一方、『利便性』では、市全体の満足度を下回り、「通勤・通学の便利さ」(57.9%)で10ポイント以上下回っている。(図表2-9)

図表2-10 生活環境の満足度（＜満足＞、多摩区）

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

（％）

	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
多摩区	52.1	49.0	53.1	63.0	70.3	63.5	68.2	66.7	64.1	41.1	49.5	62.5
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



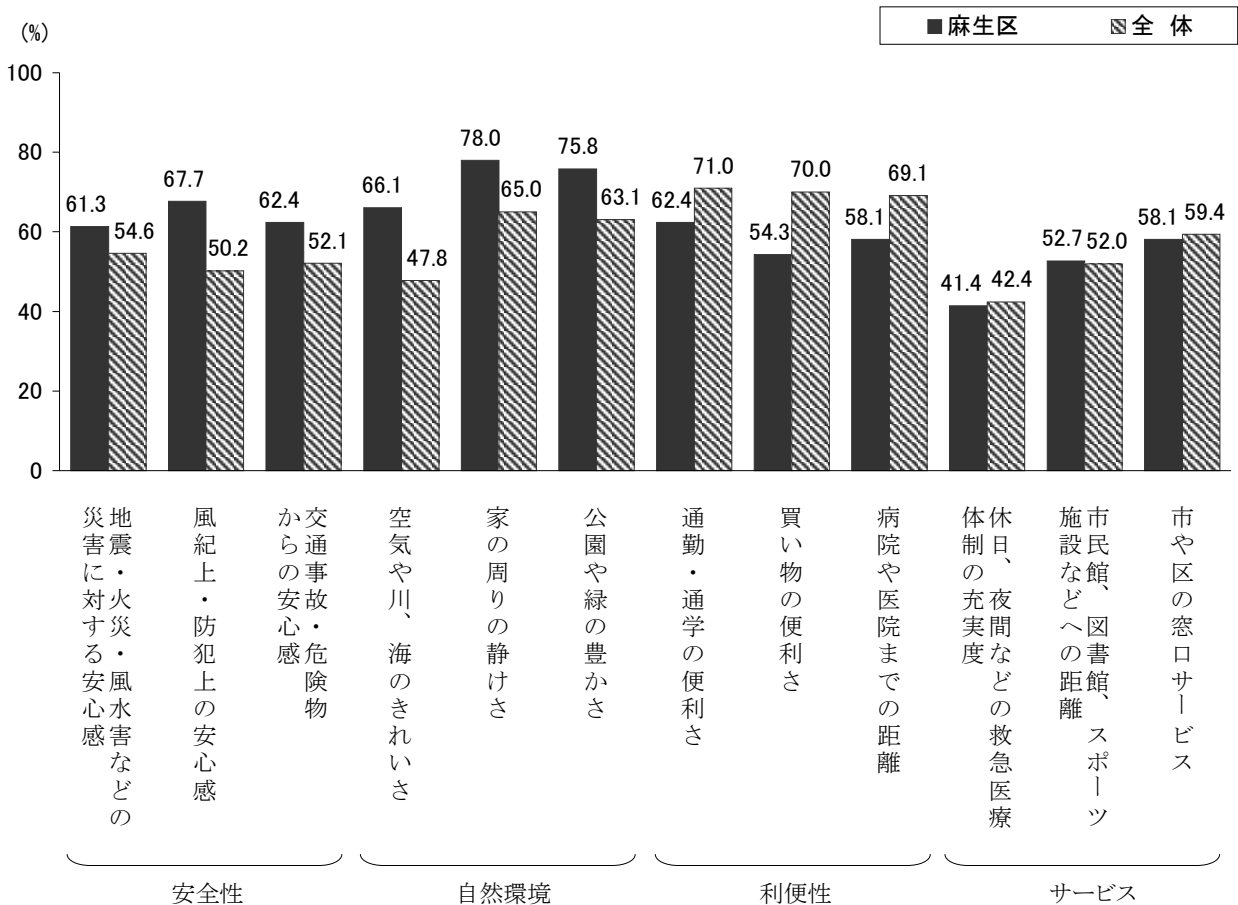
多摩区の生活環境満足度は、『自然環境』で市全体の満足度を上回り、「空気や川、海のきれいさ」(63.0%)で10ポイント以上上回っている。一方、『利便性』では、市全体の満足度を下回っている。(図表2-10)

図表 2-11 生活環境の満足度 (&lt;満足&gt;、麻生区)

「満足している」と「まあ満足している」の合計の率で表示

(%)

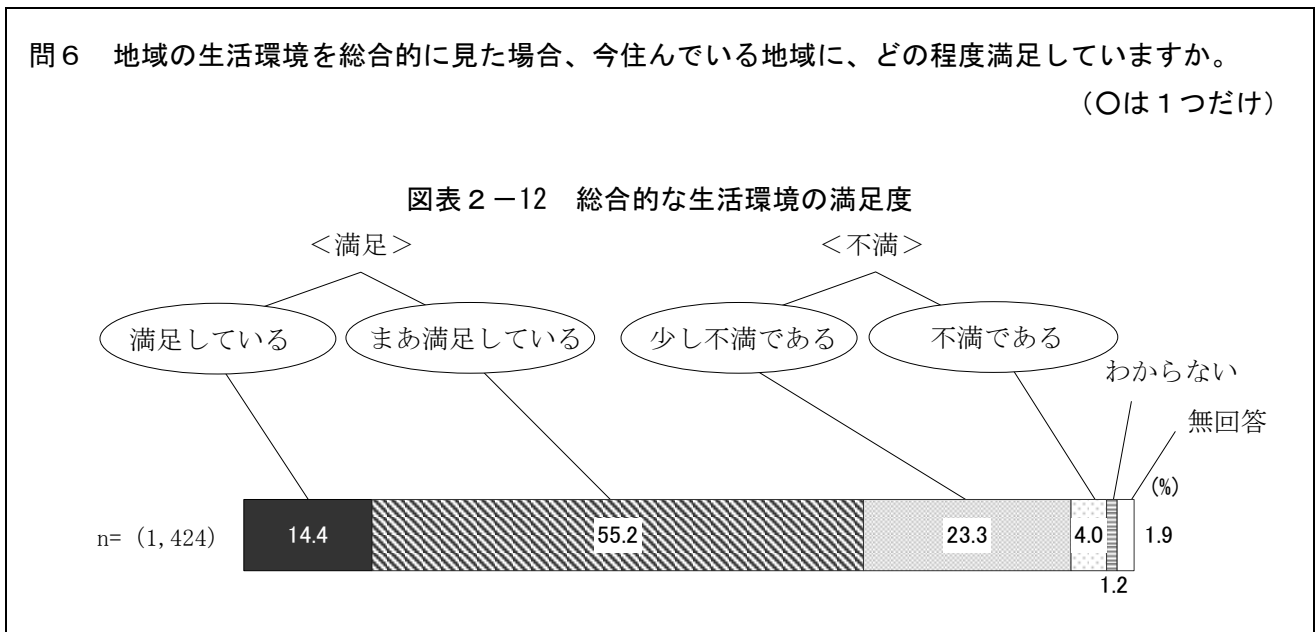
	地震・火災・風水害などの災害に対する安心感	風紀上・防犯上の安心感	交通事故・危険物からの安心感	空気や川、海のきれいさ	家の周りの静けさ	公園や緑の豊かさ	通勤・通学の便利さ	買い物の便利さ	病院や医院までの距離	休日、夜間などの救急医療体制の充実度	市民館、図書館、スポーツ施設などへの距離	市や区の窓口サービス
麻生区	61.3	67.7	62.4	66.1	78.0	75.8	62.4	54.3	58.1	41.4	52.7	58.1
全体	54.6	50.2	52.1	47.8	65.0	63.1	71.0	70.0	69.1	42.4	52.0	59.4



麻生区の生活環境満足度は、『安全性』、『自然環境』で市全体の満足度を上回り、「風紀上・防犯上の安心感」(67.7%)、「交通事故・危険物からの安心感」(62.4%)、「空気や川、海のきれいさ」(66.1%)、「家の周りの静けさ」(78.0%)、「公園や緑の豊かさ」(75.8%)で10ポイント以上上回っている。一方、『利便性』は、市全体の満足度を下回り、「買い物の便利さ」(54.3%)、「病院や医院までの距離」(58.1%)で10ポイント以上下回っている。(図表2-11)

## 2-2 総合的な生活環境の満足度

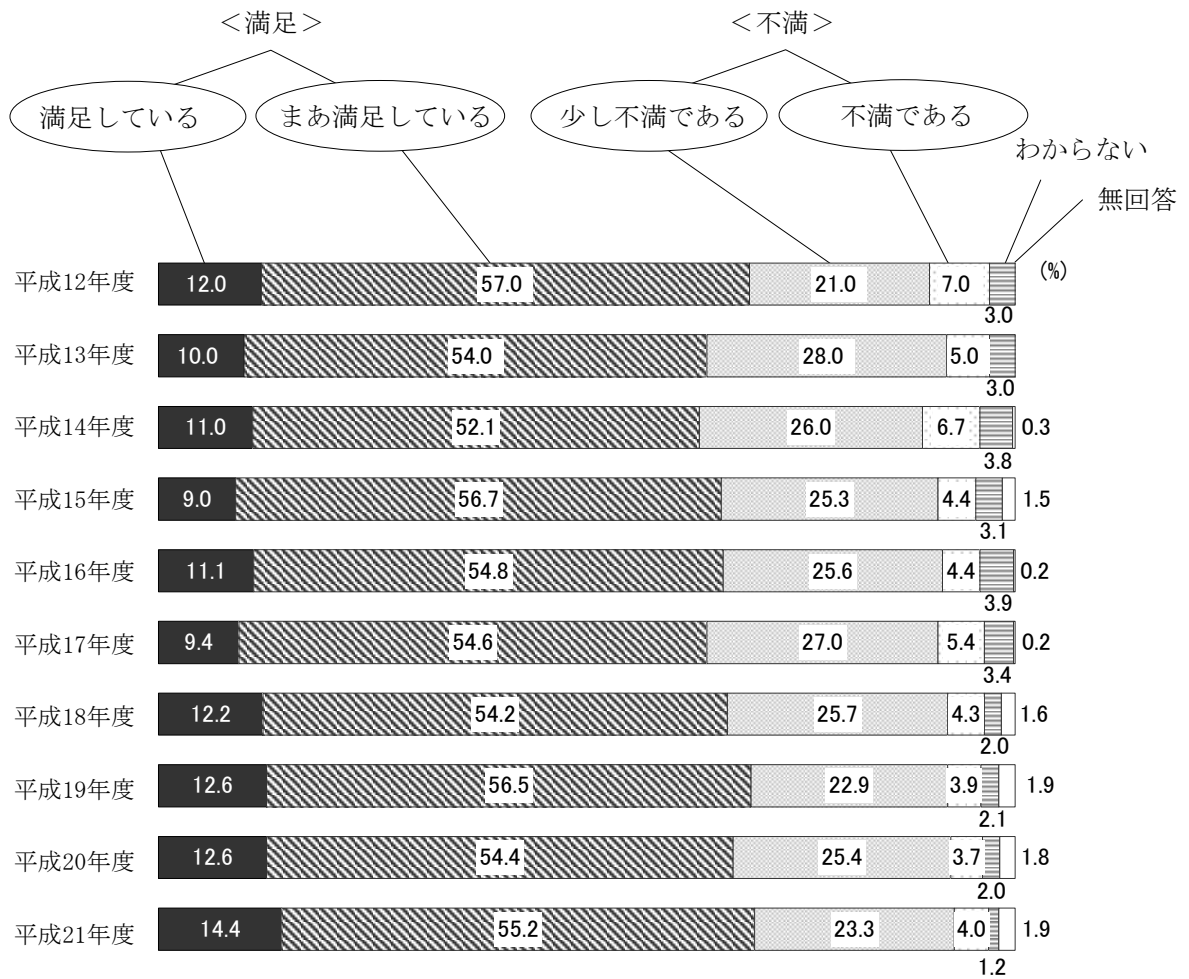
◎<満足>が69.6%



総合的な生活環境は、「満足している」(14.4%)と「まあ満足している」(55.2%)をあわせた<満足>は69.6%となっている。一方、「少し不満である」(23.3%)と「不満である」(4.0%)をあわせた<不満>は27.3%となっている。(図表2-12)

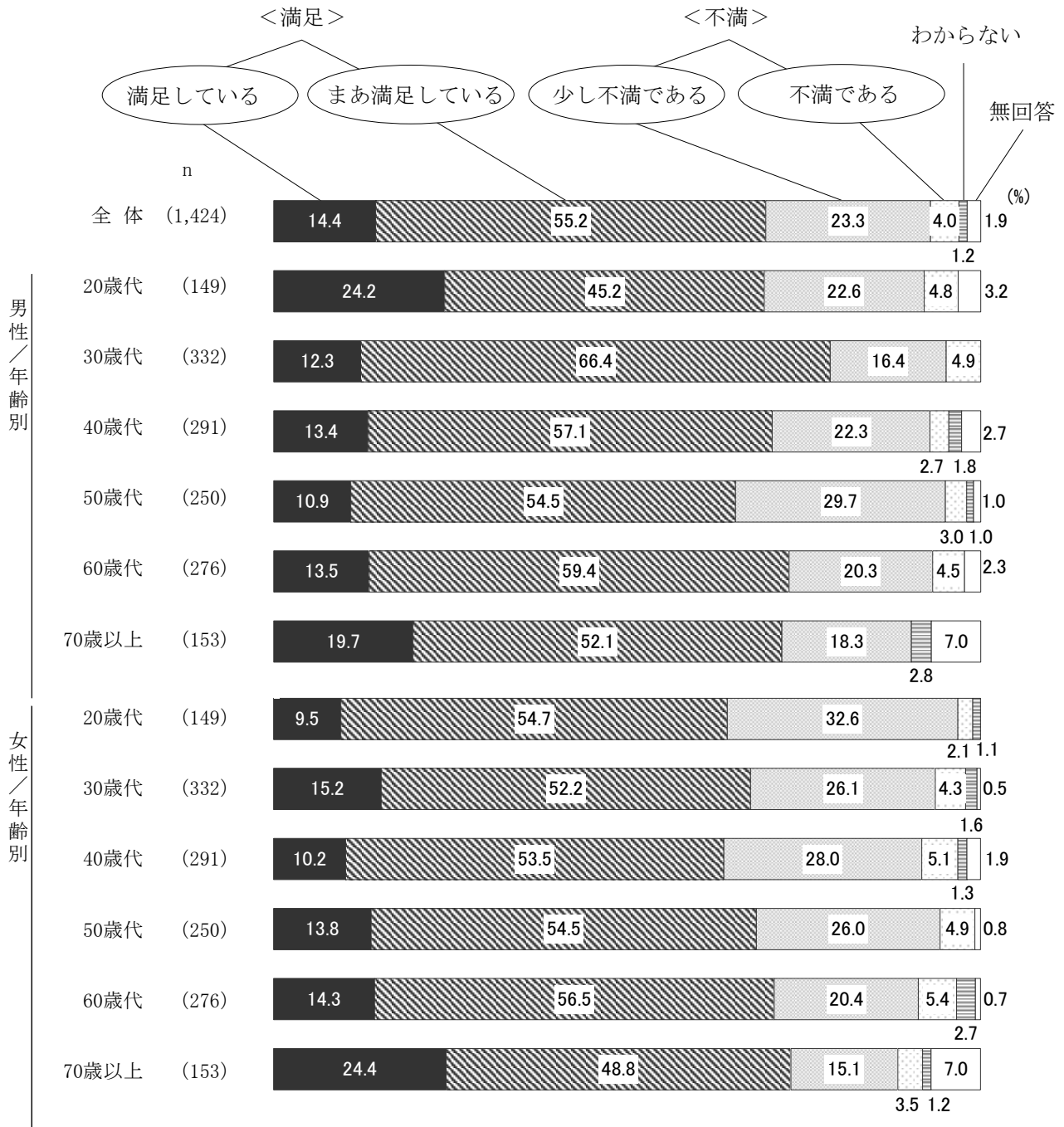


図表 2-13 総合的な生活環境の満足度（経年比較）



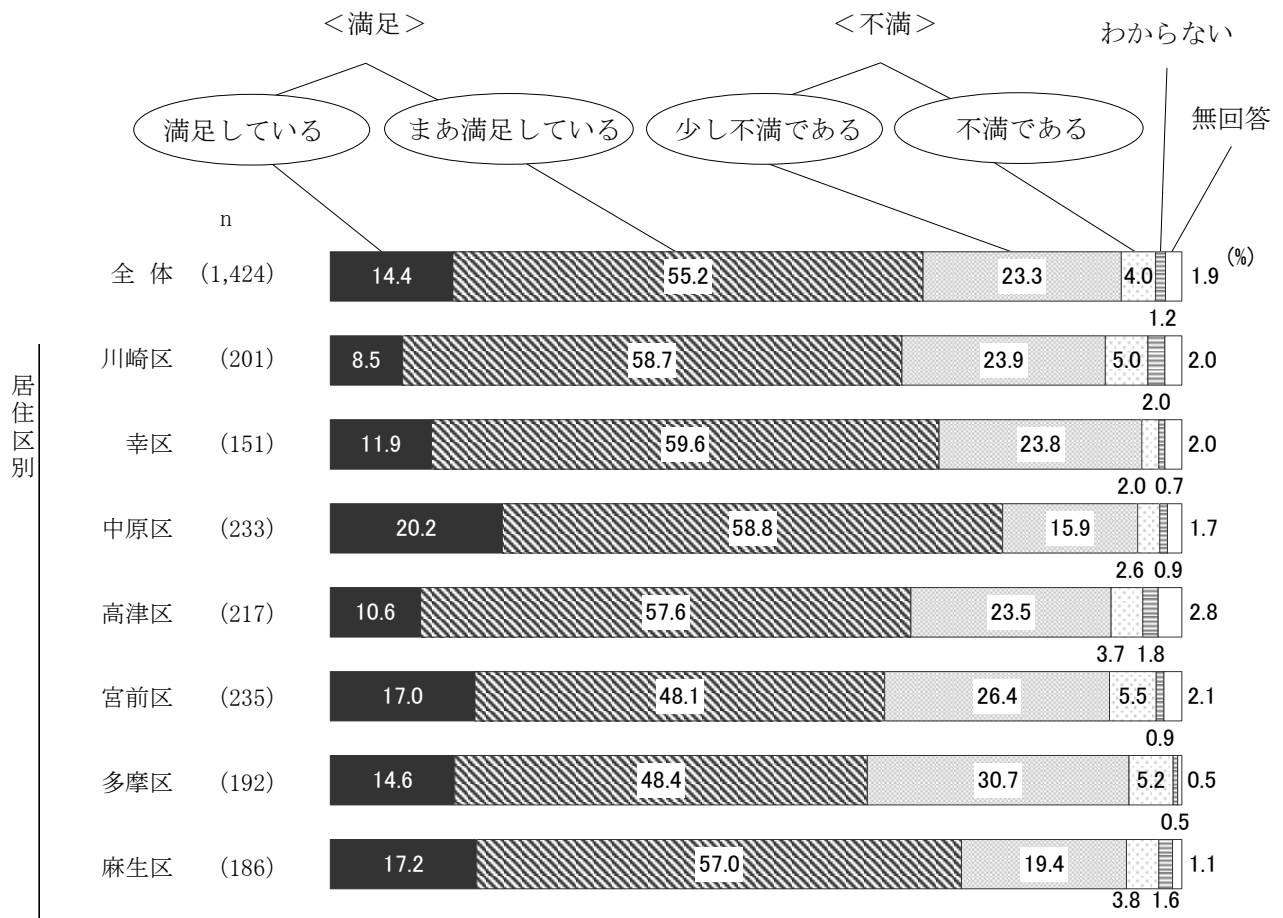
「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>は、平成12年度以降、6割台で推移している。(図表2-13)

図表2-14 総合的な生活環境の満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、＜満足＞は、男性の30歳代が7割台後半と最も多く、男女とも60歳代以上で7割台となっている。一方、＜不満＞は、女性の20歳代が3割台半ばと最も多くなっている。(図表2-14)

図表 2-15 総合的な生活環境の満足度 (居住区別)



居住区別では、「満足している」と「まあ満足している」をあわせた<満足>は、中原区が約8割と最も多く、幸区と麻生区で7割台となっている。「少し不満である」と「不満である」をあわせた<不満>は、宮前区、多摩区で3割台となっている。(図表 2-15)

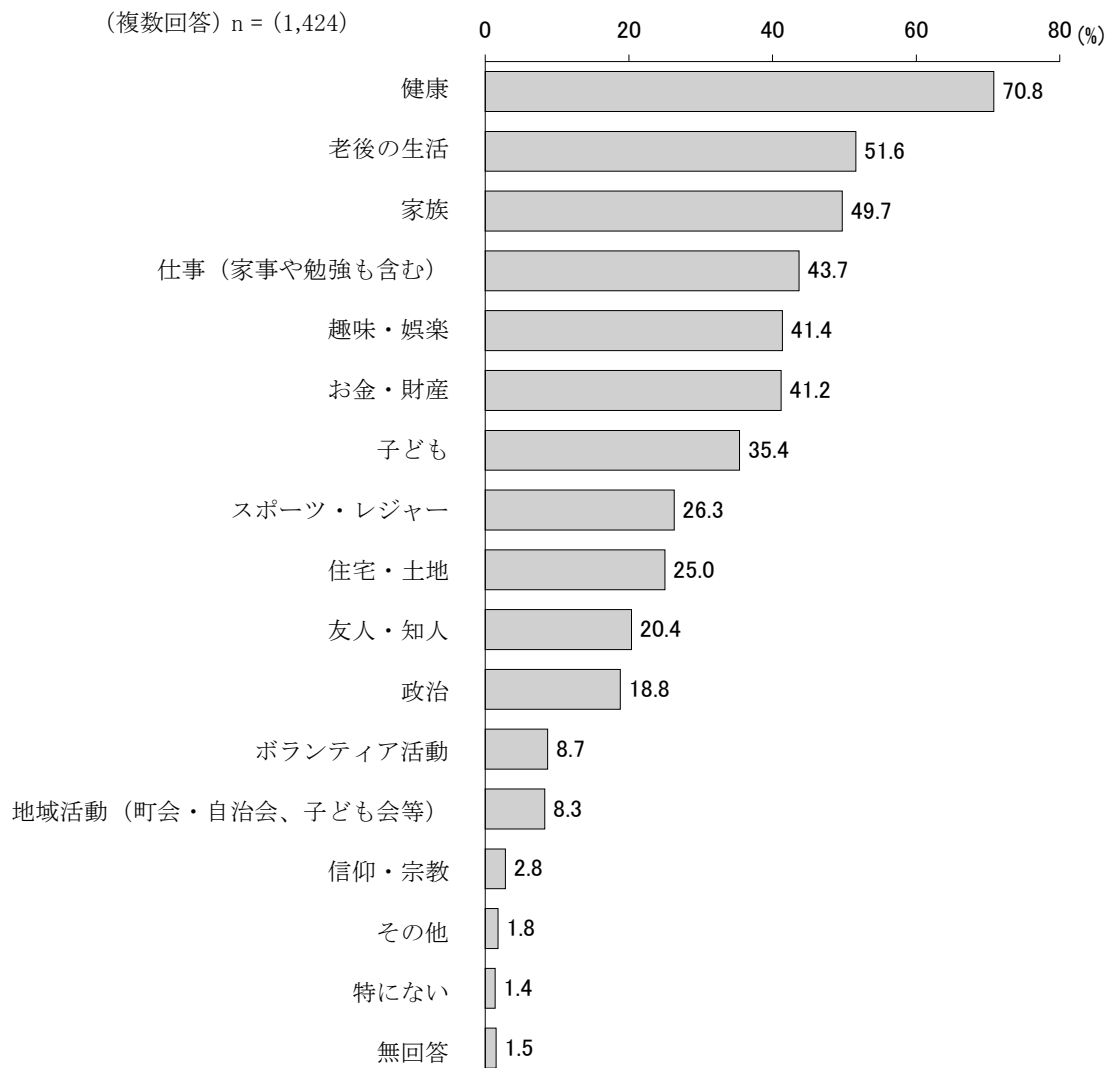
### 3 関心ごとと行動範囲について

#### 3-1 関心を持っていること

◎「健康」が70.8%

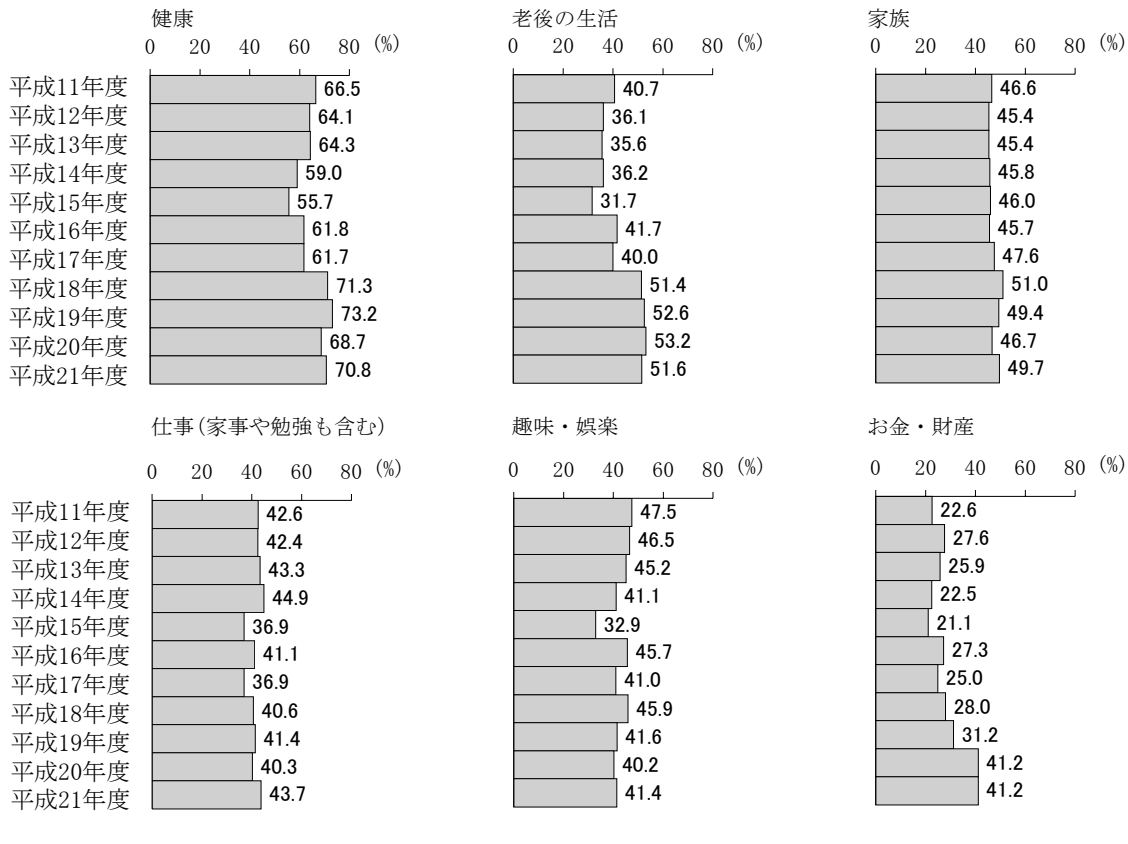
問7 現在特に関心をお持ちのことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図表3-1 関心を持っていること



関心を持っていることは、「健康」(70.8%)が最も多くなっている。以下「老後の生活」(51.6%)、「家族」(49.7%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(43.7%)と続いている。(図表3-1)

図表3-2 関心を持っていること（経年比較、上位6項目）

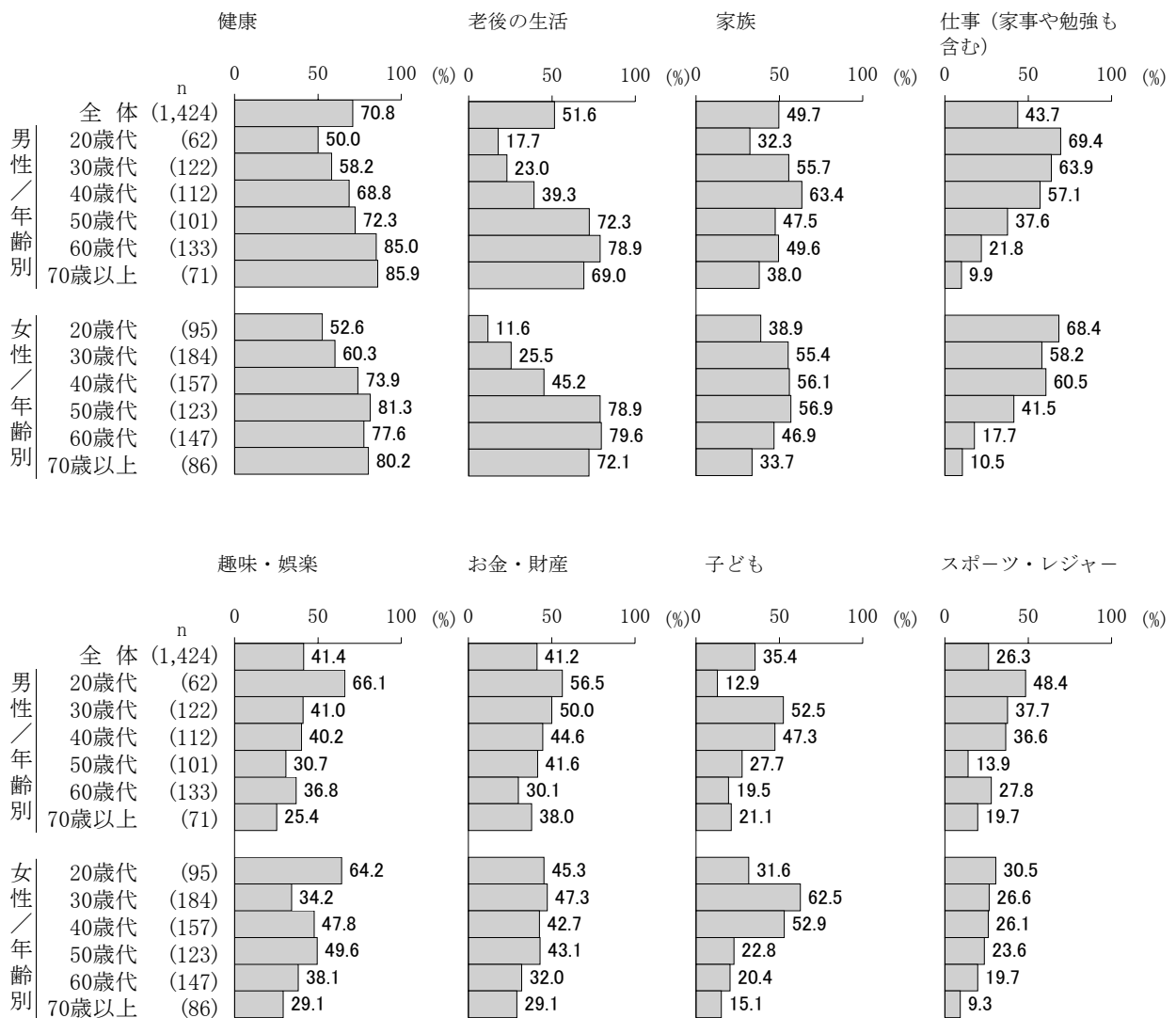


	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
平成12年度	健康 64.1	趣味・娯楽 46.5	家族 45.4	仕事(家事や勉強も含む) 42.4	子ども 37.2	老後の生活 36.1
平成13年度	健康 64.3	家族 45.4	趣味・娯楽 45.2	仕事(家事や勉強も含む) 43.3	老後の生活 35.6	子ども 32.9
平成14年度	健康 59.0	家族 45.8	仕事(家事や勉強も含む) 44.9	趣味・娯楽 41.1	老後の生活 36.2	子ども 34.4
平成15年度	健康 55.7	家族 46.0	仕事(家事や勉強も含む) 36.9	子ども 34.1	趣味・娯楽 32.9	老後の生活 31.7
平成16年度	健康 61.8	家族/趣味・娯楽 45.7	老後の生活 41.7	仕事(家事や勉強も含む) 41.1	子ども 34.5	
平成17年度	健康 61.7	家族 47.6	趣味・娯楽 41.0	老後の生活 40.0	子ども 37.7	仕事(家事や勉強も含む) 36.9
平成18年度	健康 71.3	老後の生活 51.4	家族 51.0	趣味・娯楽 45.9	仕事(家事や勉強も含む) 40.6	子ども 35.5
平成19年度	健康 73.2	老後の生活 52.6	家族 49.4	趣味・娯楽 41.6	仕事(家事や勉強も含む) 41.4	子ども 34.0
平成20年度	健康 68.7	老後の生活 53.2	家族 46.7	お金・財産 41.2	仕事(家事や勉強も含む) 40.3	趣味・娯楽 40.2
平成21年度	健康 70.8	老後の生活 51.6	家族 49.7	仕事(家事や勉強も含む) 43.7	趣味・娯楽 41.4	お金・財産 41.2

注:「お金・財産」は平成19年度調査までは「金・財産」であった。

上位の6項目について、平成12年度以降を比較した。「お金・財産」は、平成20年度と同じ41.2%であるが、順位は4位から6位となっている。また、「家族」、「仕事(家事や勉強も含む)」が約3ポイント増加している。(図表3-2)

図表3-3 関心を持っていること(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「健康」は、男女とも年齢が上がるにつれ割合が多くなる傾向となっており、特に男性の60歳代、70歳以上で8割台半ば、女性の50歳代、70歳以上で8割台前半となっている。「老後の生活」は、男女とも50歳代から60歳代で多く、男性の60歳代、女性の50歳代、60歳代で約8割となっている。「家族」は、男性の40歳代で6割台半ばと多くなっている。「仕事(家事や勉強も含む)」は、男女とも20歳代から40歳代で割合が多く、男女とも20歳代で約7割となっている。「趣味・娯楽」、「スポーツ・レジャー」は、男女とも20歳代で最も多くなっている。「子ども」は、男女とも30歳代、40歳代が多く、特に女性の30歳代で6割台半ばとなっている。(図表3-3)

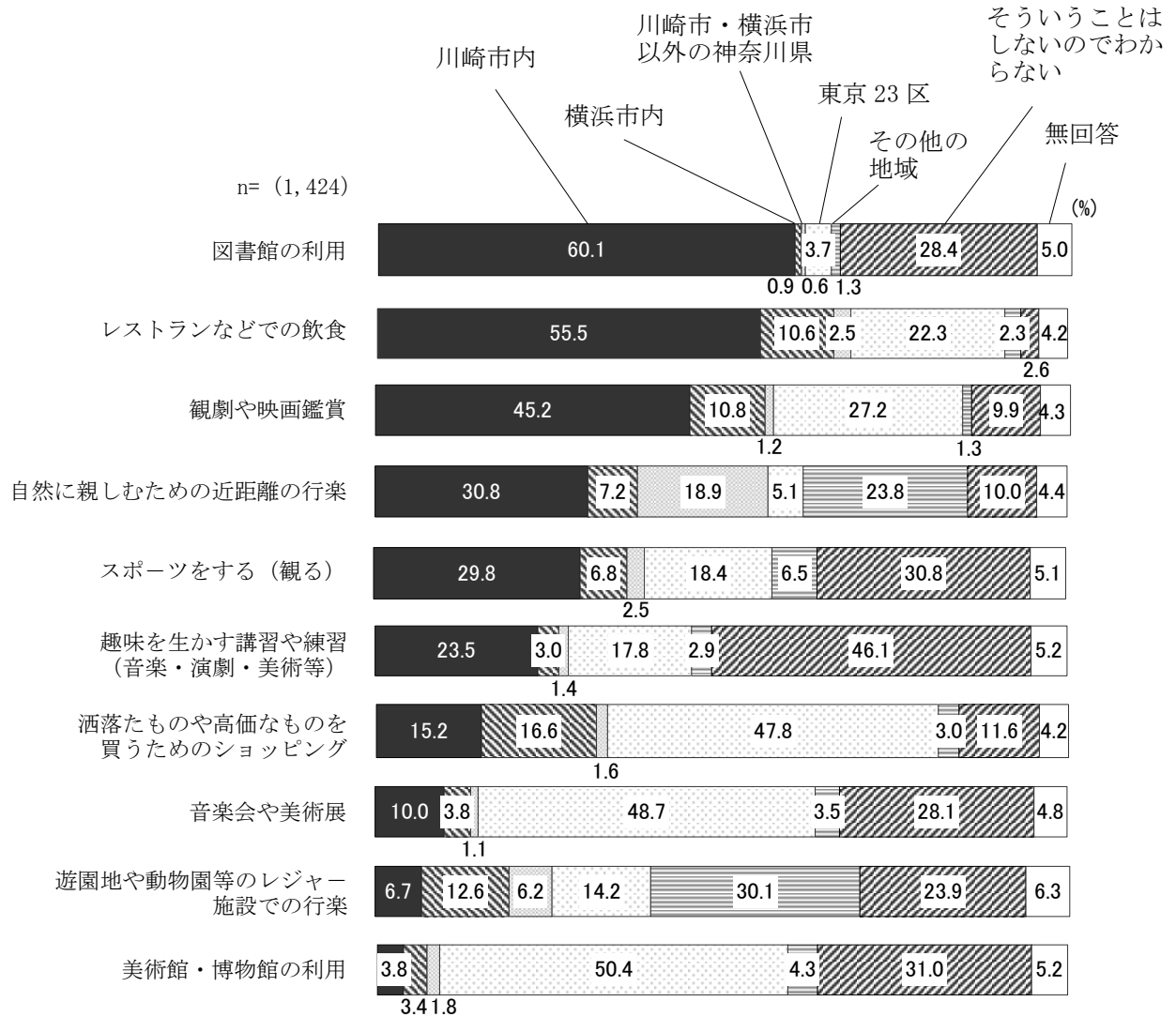
### 3-2 行動範囲

◎『川崎市内』で多いのは、「図書館の利用」60.1%、「レストランなどでの飲食」55.5%

問8 行楽や文化施設の利用・ショッピングなどをされる場合、主にどこに行かれますか。

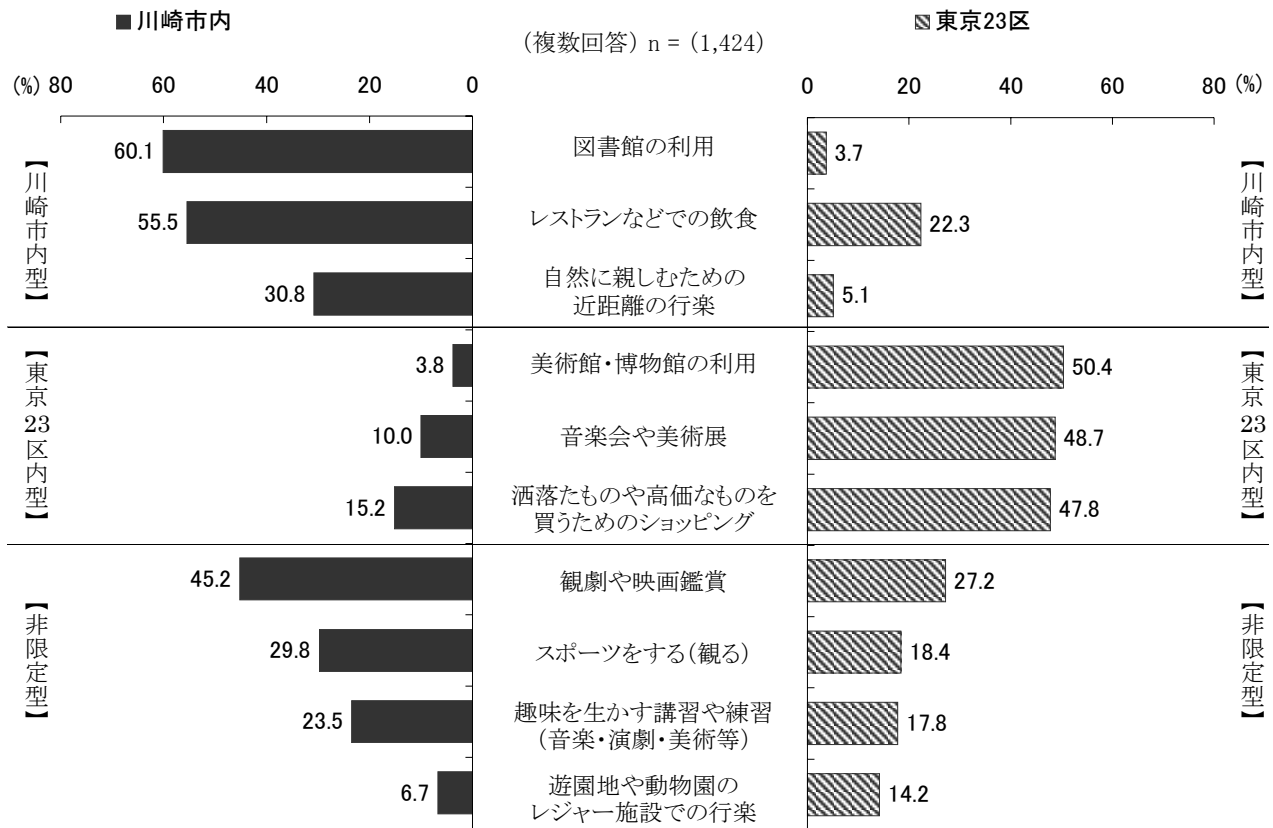
(○はそれぞれ1つずつ)

図表3-4 行動範囲



川崎市民の行動範囲で『川崎市内』が最も多かったのは、「図書館の利用」(60.1%)となっている。以下「レストランなどでの飲食」(55.5%)、「観劇や映画鑑賞」(45.2%)と続いている。一方、『東京23区』では、「美術館・博物館の利用」(50.4%)、「音楽会や美術展」(48.7%)、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(47.8%)が多くなっている。(図表3-4)

図表3-5 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較)



各項目について、行動範囲別に【川崎市内型】、【東京23区内型】、【非限定型】に分類すると以下ようになる。(図表3-5)

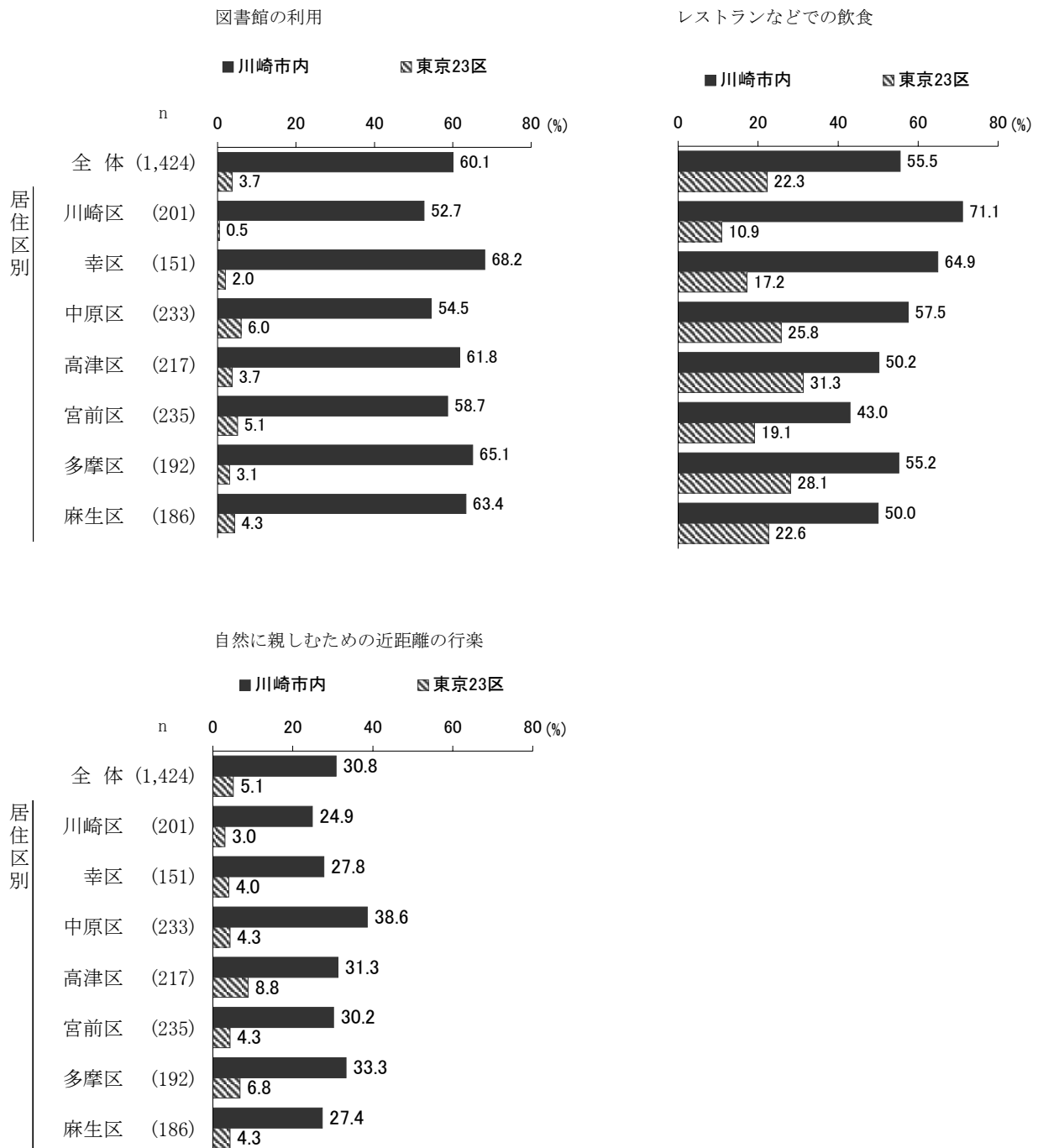
【川崎市内型】 …… 図書館の利用  
レストランなどでの飲食  
自然に親しむための近距離の行楽

【東京23区内型】 …… 美術館・博物館の利用  
音楽会や美術展  
洒落たものや高価なものを買うためのショッピング

【非限定型】 …… 観劇や映画鑑賞  
スポーツをする(観る)  
趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)  
遊園地や動物園等のレジャー施設での行楽

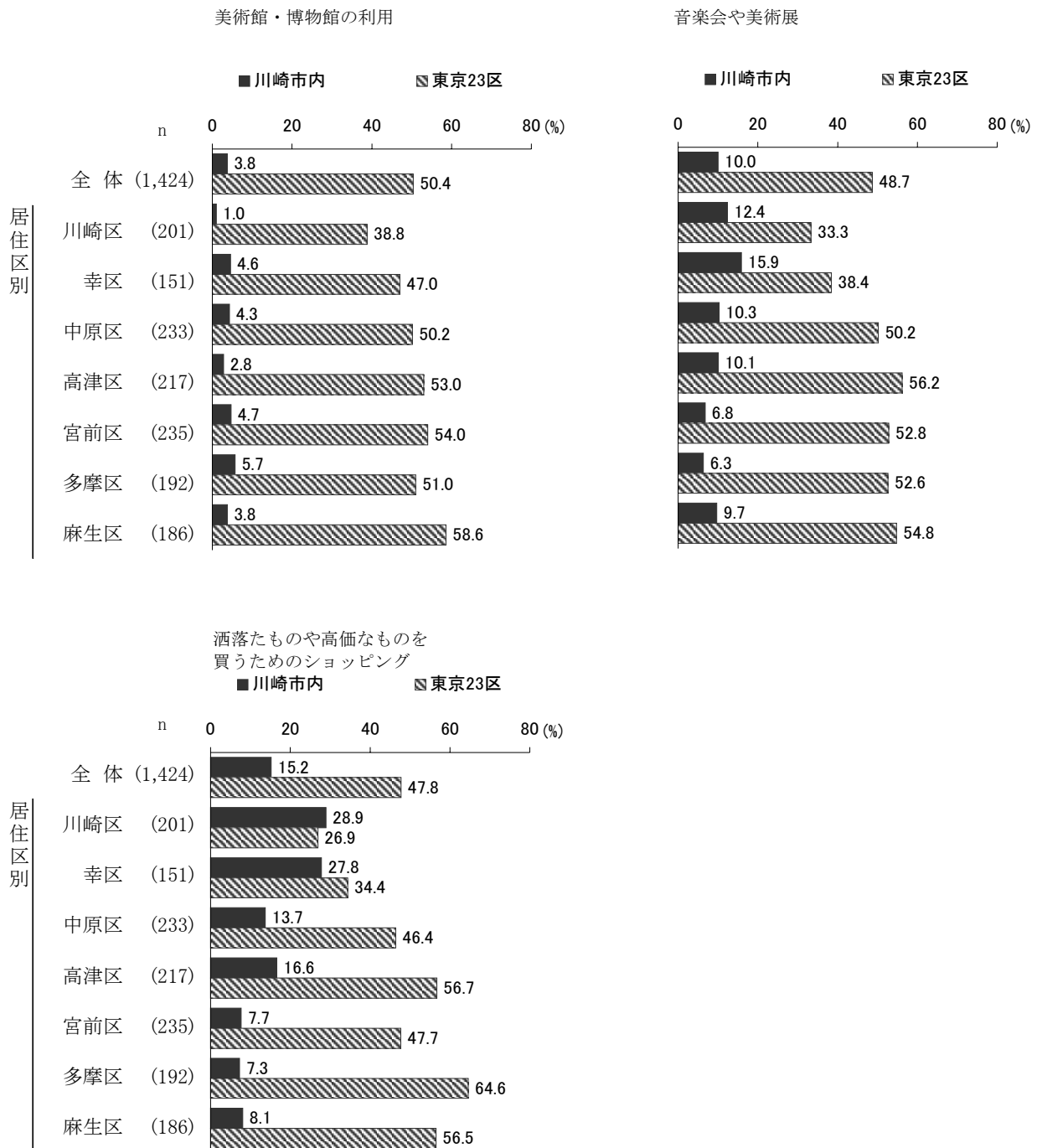


図表3-6 行動範囲(『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別)【川崎市内型】



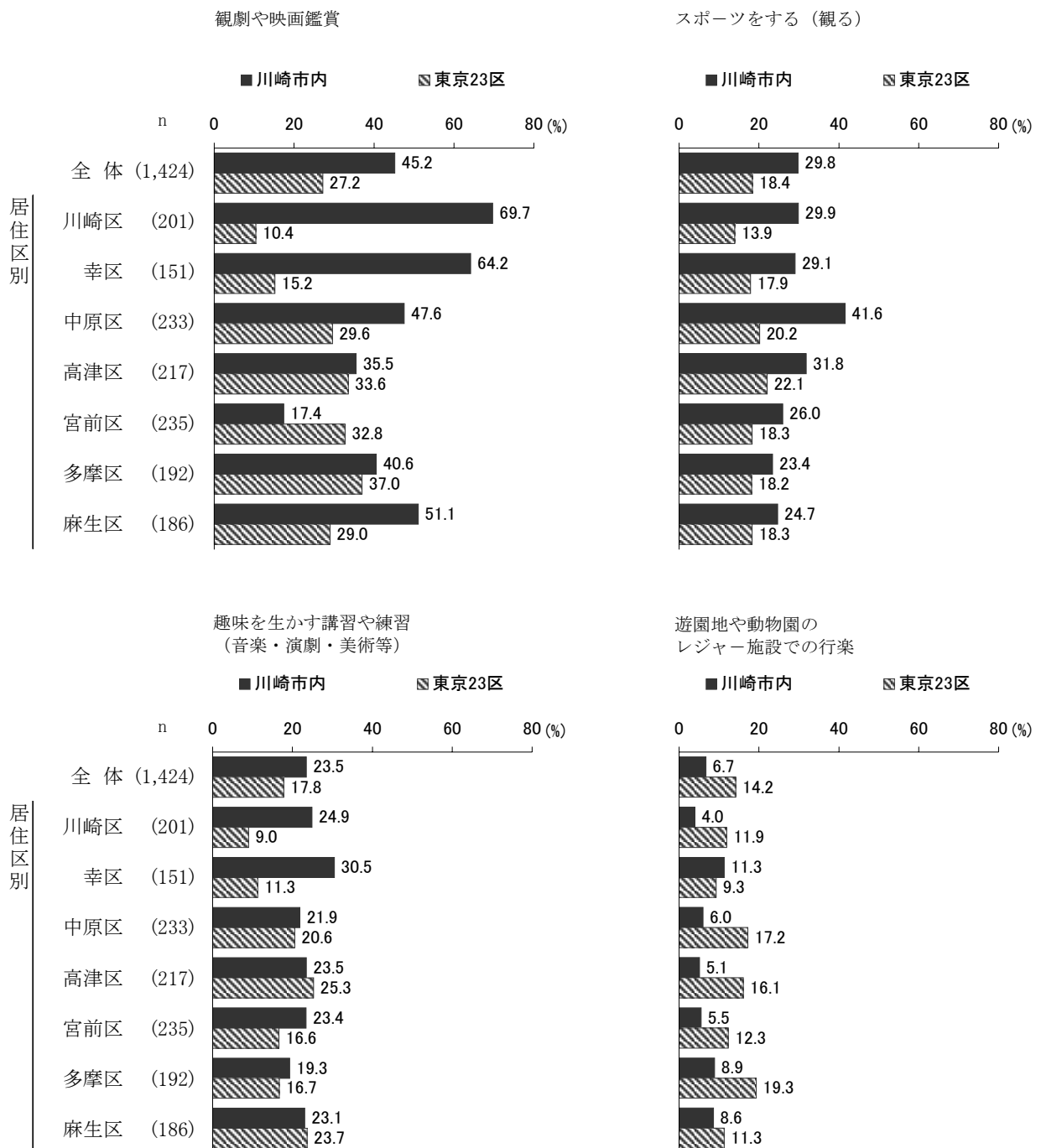
【川崎市内型】に分類した『川崎市内』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「図書館の利用」は、幸区が6割台後半で多く、『東京23区』の利用率は、いずれの居住区においても1割未満と少なくなっている。「レストランなどでの飲食」は、川崎区で7割台と多くなっている。一方、高津区では、『川崎市内』が50.2%に対し、『東京23区』が31.3%と多くなっている。「自然に親しむための近距離の行楽」は、中原区で3割台後半と多くなっている。(図表3-6)

図表3-7 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別）【東京23区内型】



【東京23区内型】に分類した『東京23区』での利用率が高い3項目を、居住区別で比較すると、「美術館・博物館の利用」、「音楽会や美術展」、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」のいずれも高津区、多摩区、麻生区の『東京23区』での利用率が5割台から6割台で多くなっている。一方、川崎区、幸区で「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」は『川崎市内』の利用率が2割台後半と多く、また、『東京23区』の利用率と同程度となっている。(図表3-7)

図表3-8 行動範囲（『川崎市内』と『東京23区』との比較、居住区別）【非限定型】



【非限定型】に分類した『川崎市内』や『東京23区』に限定せずに平均的な利用があると思われる4項目を、居住区別で比較すると、「観劇や映画鑑賞」は、川崎区、幸区で『川崎市内』の割合が6割台と多く、『東京23区』と比べ50ポイント程度上回っている。「スポーツをする(観る)」は、中原区で『川崎市内』の利用率が4割と、『東京23区』を20ポイント程度上回っている。「趣味を生かす講習や練習(音楽・演劇・美術等)」は、川崎区、幸区で『川崎市内』の利用率が多く、『東京23区』を15ポイント以上上回っている。(図表3-8)



## 4 市政に対する評価と要望について

### 4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

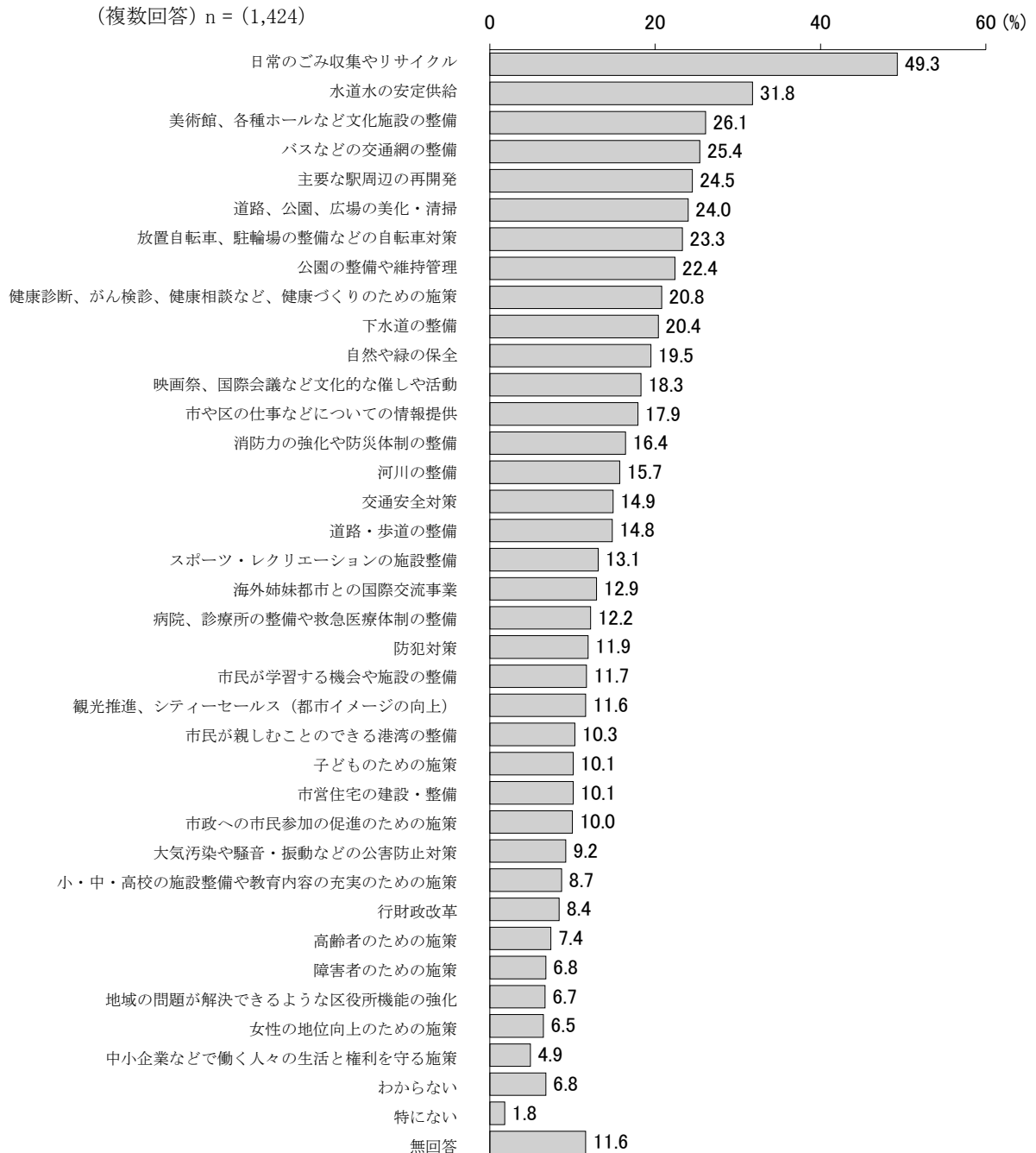
◎「日常のごみ収集やリサイクル」が49.3%

問9 市政について総合的にうかがいます。

次にあげる仕事の中で、よくやっていると思われるものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

(複数回答) n = (1,424)



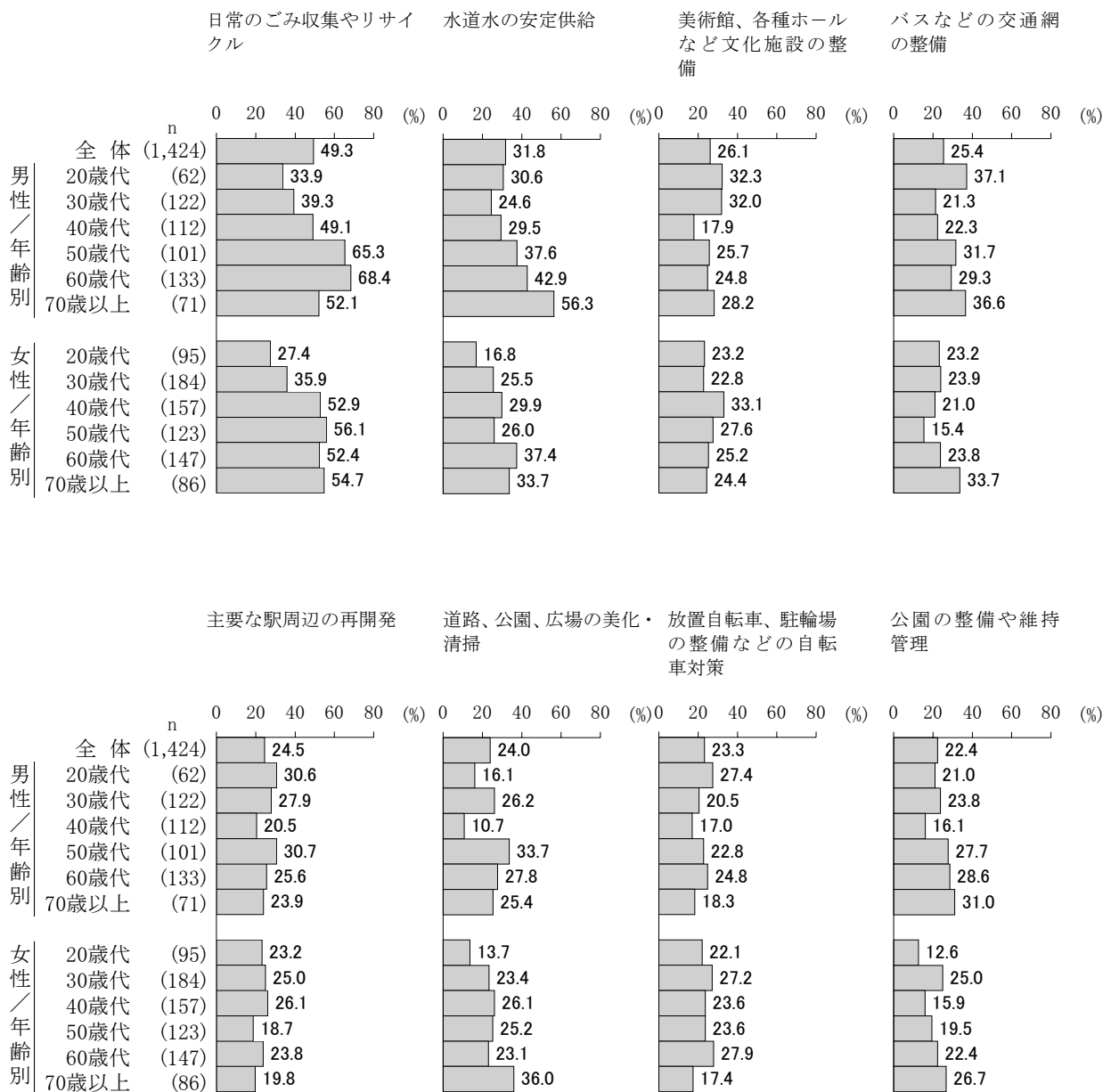
市政の仕事でよくやっていると思うことは、「日常のごみ収集やリサイクル」(49.3%)が最も多くなっている。以下「水道水の安定供給」(31.8%)、「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(26.1%)、「バスなどの交通網の整備」(25.4%)と続いている。(図表4-1)

図表4-2 市政の仕事でよくやっていると思うこと(前年比較) (%)

	平成21年度	平成20年度
日常のごみ収集やリサイクル	49.3	45.1
水道水の安定供給	31.8	29.3
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	26.1	24.4
バスなどの交通網の整備	25.4	27.4
主要な駅周辺の再開発	24.5	22.6
道路、公園、広場の美化・清掃	24.0	23.4
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	23.3	22.7
公園の整備や維持管理	22.4	20.8
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	20.8	16.4
下水道の整備	20.4	21.2
自然や緑の保全	19.5	18.8
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	18.3	16.9
市や区の仕事などについての情報提供	17.9	18.4
消防力の強化や防災体制の整備	16.4	13.7
河川の整備	15.7	15.1
交通安全対策	14.9	13.6
道路・歩道の整備	14.8	16.9
スポーツ・レクリエーションの施設整備	13.1	11.7
海外姉妹都市との国際交流事業	12.9	13.1
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	12.2	9.4
防犯対策	11.9	11.0
市民が学習する機会や施設の整備	11.7	9.7
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	11.6	11.2
市民が親しむことのできる港湾の整備	10.3	10.1
子どものための施策	10.1	8.9
市営住宅の建設・整備	10.1	10.6
市政への市民参加の促進のための施策	10.0	10.0
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	9.2	7.9
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	8.7	7.7
行財政改革	8.4	7.4
高齢者のための施策	7.4	7.5
障害者のための施策	6.8	7.0
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	6.7	5.2
女性の地位向上のための施策	6.5	5.8
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	4.9	4.5
わからない	6.8	7.2
特になし	1.8	2.3
無回答	11.6	14.6

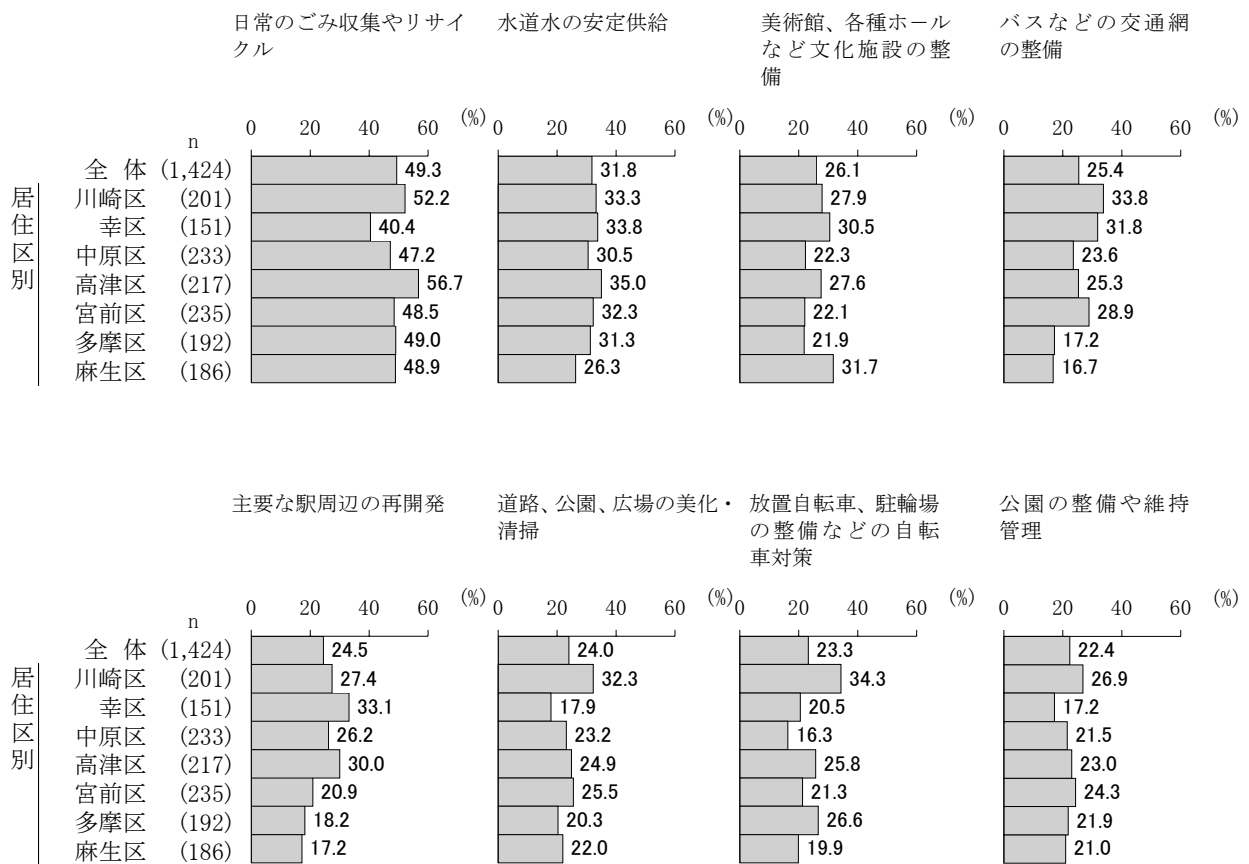
平成20年度と比較すると、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(20.8%)、「日常のごみ収集やリサイクル」(49.3%)で4ポイント以上上回っている。一方、「バスなどの交通網の整備」(25.4%)、「道路・歩道の整備」(14.8%)で2ポイント以上下回っている。(図表4-2)

図表4-3 市政の仕事でよくやっていると思うこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、男性の50歳代、60歳代が6割台と多くなっている。「水道水の安定供給」は、男性の70歳以上が5割台半ばと多くなっている。(図表4-3)

図表4-4 市政の仕事でよくやっていると思うこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「日常のごみ収集やリサイクル」は、川崎区、高津区が5割台と多くなっている。「水道水の安定供給」は、麻生区が2割台と少なくなっている。「バスなどの交通網の整備」は、川崎区、幸区が3割台と多くなっている。一方、多摩区、麻生区が1割台と少なくなっている。「道路、公園、広場の美化・清掃」、「放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策」は、川崎区が3割台と多くなっている。(図表4-4)

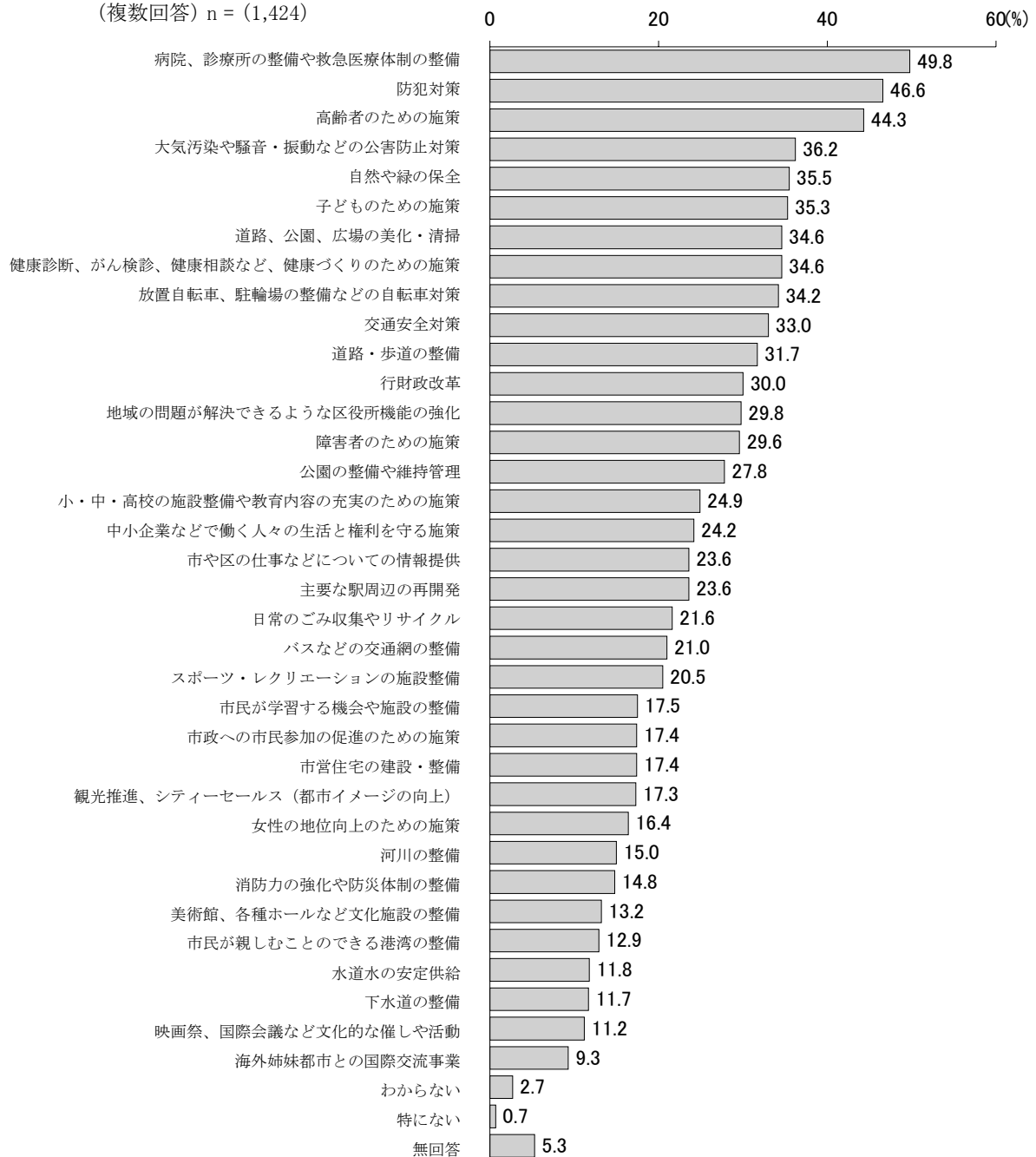


## 4-2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

◎「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」が49.8%、「防犯対策」が46.6%

問10 また、今後特に力を入れてほしいとお考えのものは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)

図表4-5 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと  
(複数回答) n = (1,424)



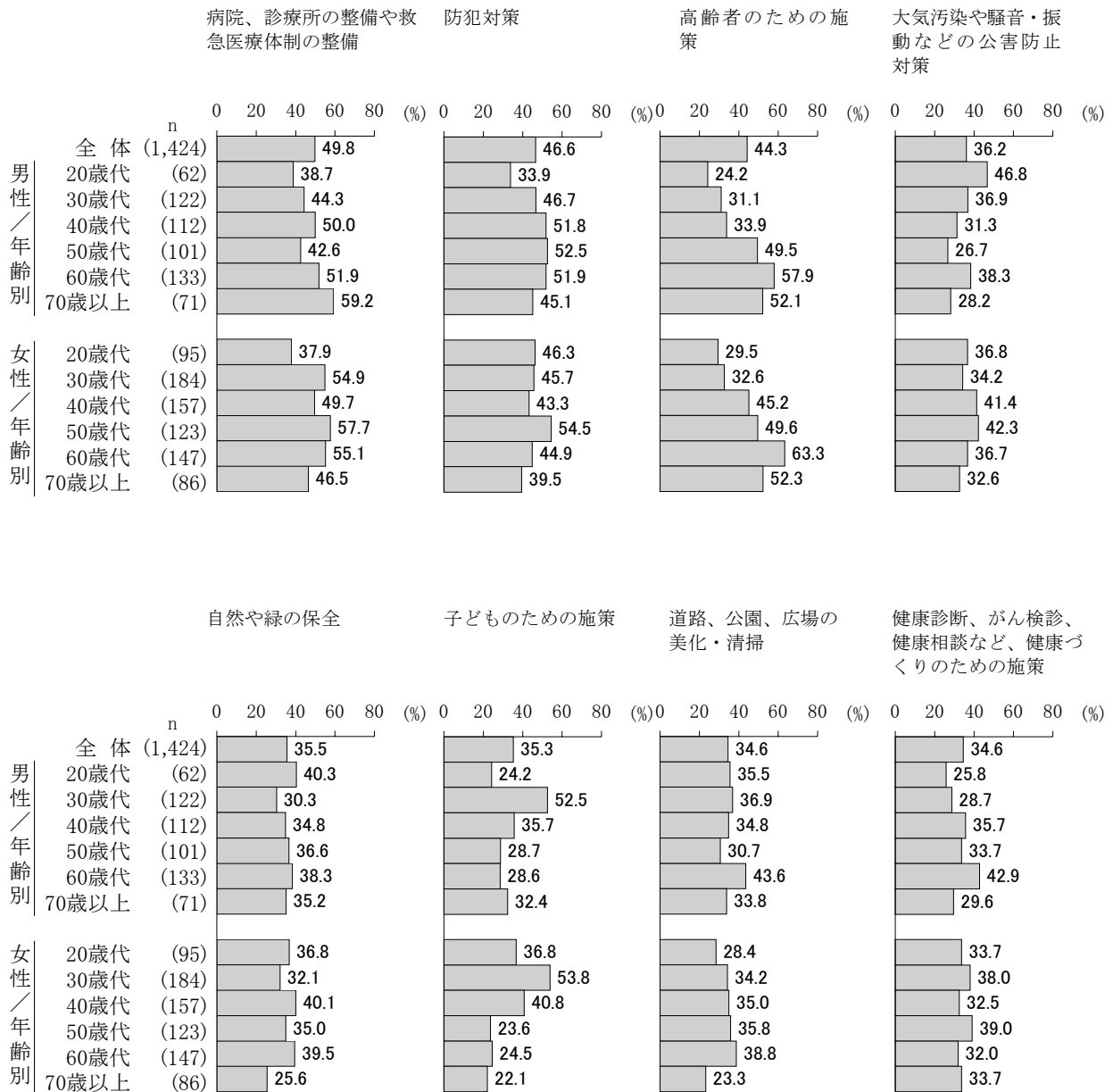
市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことは、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(49.8%)が、平成20年度に比較して2.5ポイント減少しているものの、最も多くなっている。以下「防犯対策」(46.6%)、「高齢者のための施策」(44.3%)、「大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策」(36.2%)と続いている。(図表4-5)

図表4-6 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいと思うこと(前年比較) (%)

	平成21年度	平成20年度
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	49.8	52.3
防犯対策	46.6	51.3
高齢者のための施策	44.3	44.6
大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	36.2	36.9
自然や緑の保全	35.5	36.2
子どものための施策	35.3	36.6
道路、公園、広場の美化・清掃	34.6	33.9
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	34.6	37.4
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	34.2	36.1
交通安全対策	33.0	36.7
道路・歩道の整備	31.7	28.1
行財政改革	30.0	32.0
地域の問題が解決できるような区役所機能の強化	29.8	32.2
障害者のための施策	29.6	33.4
公園の整備や維持管理	27.8	30.5
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	24.9	27.7
中小企業などで働く人々の生活と権利を守る施策	24.2	24.7
市や区の仕事などについての情報提供	23.6	21.7
主要な駅周辺の再開発	23.6	20.4
日常のごみ収集やリサイクル	21.6	24.0
バスなどの交通網の整備	21.0	18.0
スポーツ・レクリエーションの施設整備	20.5	23.8
市民が学習する機会や施設の整備	17.5	19.6
市政への市民参加の促進のための施策	17.4	18.6
市営住宅の建設・整備	17.4	17.5
観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)	17.3	16.3
女性の地位向上のための施策	16.4	16.9
河川の整備	15.0	16.7
消防力の強化や防災体制の整備	14.8	17.3
美術館、各種ホールなど文化施設の整備	13.2	14.2
市民が親しむことのできる港湾の整備	12.9	13.1
水道水の安定供給	11.8	14.8
下水道の整備	11.7	12.5
映画祭、国際会議など文化的な催しや活動	11.2	12.2
海外姉妹都市との国際交流事業	9.3	8.6
わからない	2.7	1.6
特にない	0.7	0.9
無回答	5.3	5.8

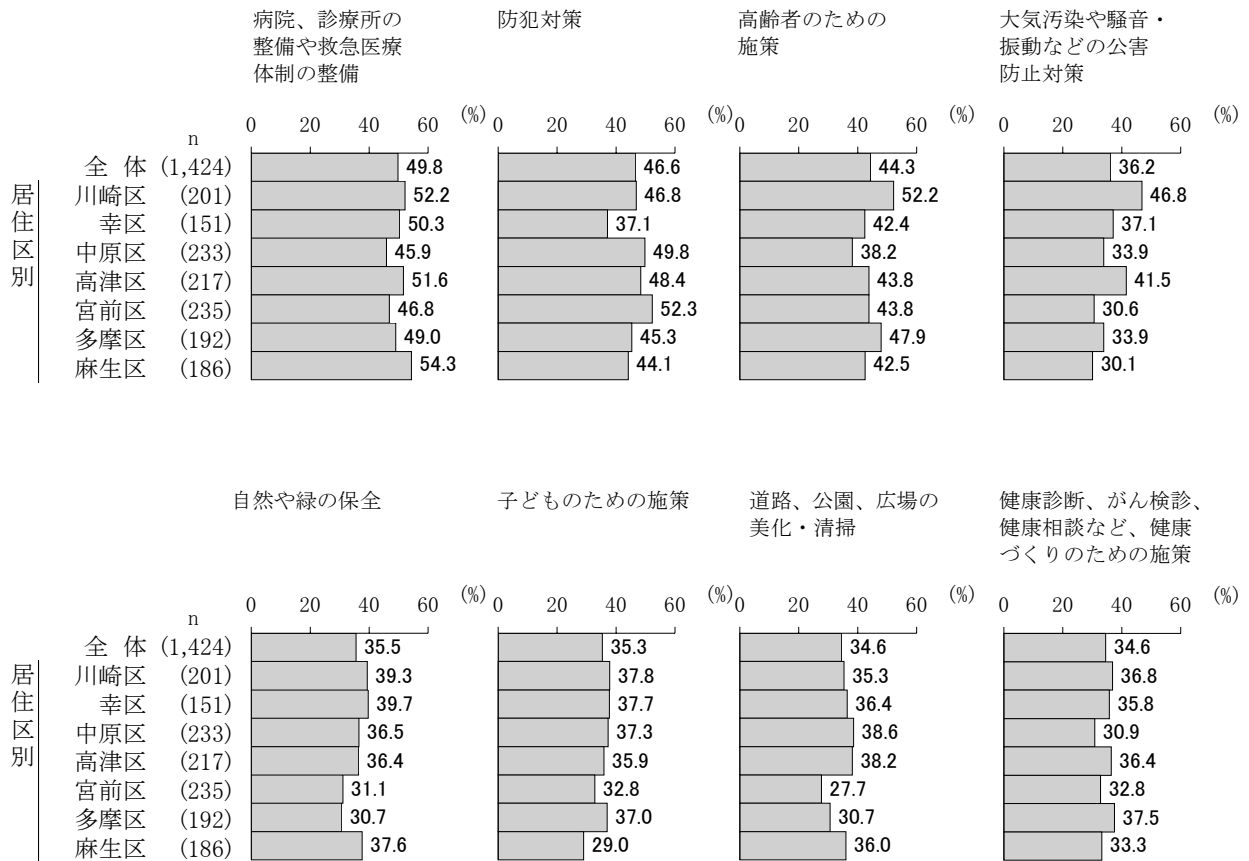
平成20年度と比較すると、「道路、公園、広場の美化・清掃」(34.6%)、「道路・歩道の整備」(31.7%)、「市や区の仕事などについての情報提供」(23.6%)、「主要な駅周辺の再開発」(23.6%)、「バスなどの交通網の整備」(21.0%)、「観光推進、シティーセールス(都市イメージの向上)」(17.3%)、「海外姉妹都市との国際交流事業」(9.3%)の6項目で増加しているものの、他の項目では減少している。特に「防犯対策」(46.6%)で4.7ポイント減少している。(図表4-6)

図表4-7 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと(性/年齢別、上位8項目)



性/年齢別では、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、男性の70歳以上、女性の50歳代が5割台後半と多くなっている。「防犯対策」は、男性の20歳代、女性の70歳以上を抜いた年齢で4割台半ばから5割台半ばとなっている。「高齢者のための施策」は、男女とも年齢が上がるにつれ割合が多くなり、60歳代で最も多くなっている。「子どものための施策」は、男女とも30歳代が5割台と多くなり、年齢が上がるにつれ割合が少なくなる傾向となっている。(図表4-7)

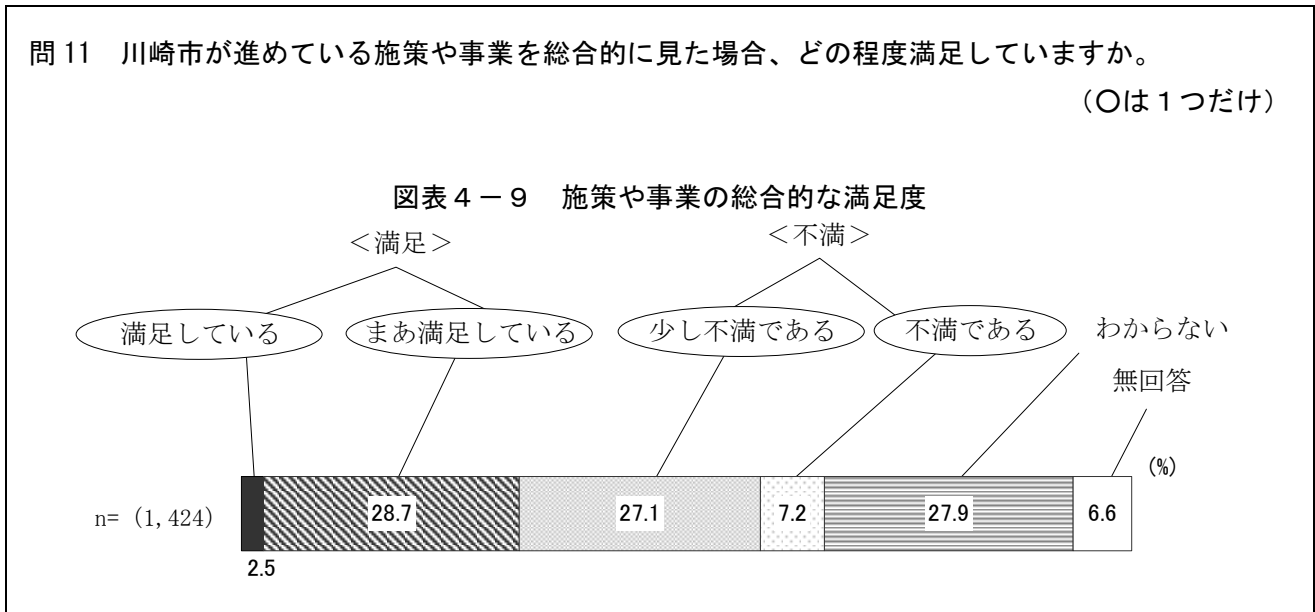
図表4-8 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと（居住区別、上位8項目）



居住区別では、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」は、どの区も4割台半ばから5割台半ばとなっている。「防犯対策」は、宮前区が5割台前半と最も多くなっている。一方、幸区が3割台半ばと少なくなっている。「高齢者のための施策」は、川崎区が5割台前半と最も多くなっている。(図表4-8)

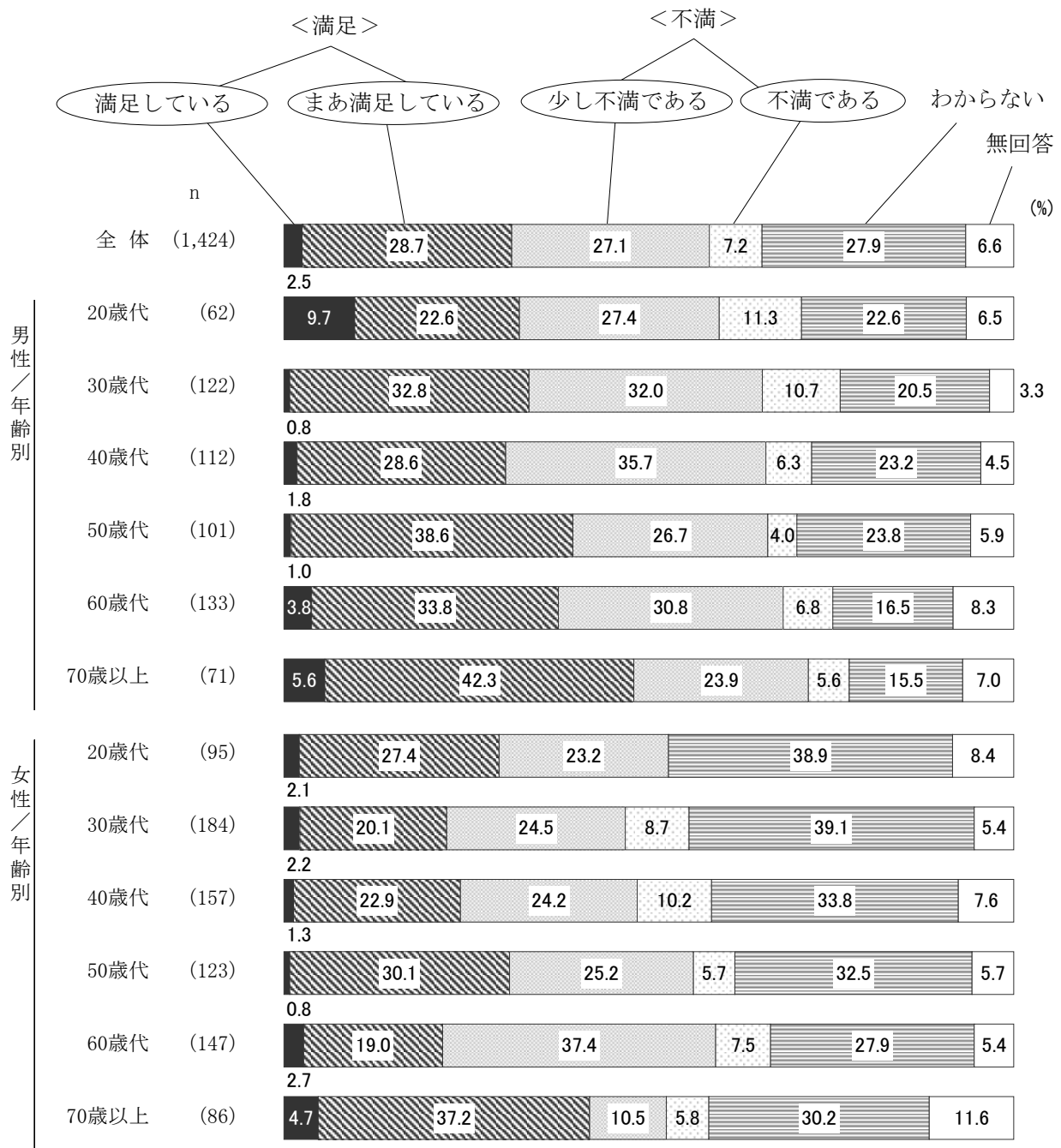
### 4-3 施策や事業の総合的な満足度

◎<満足>が31.2%



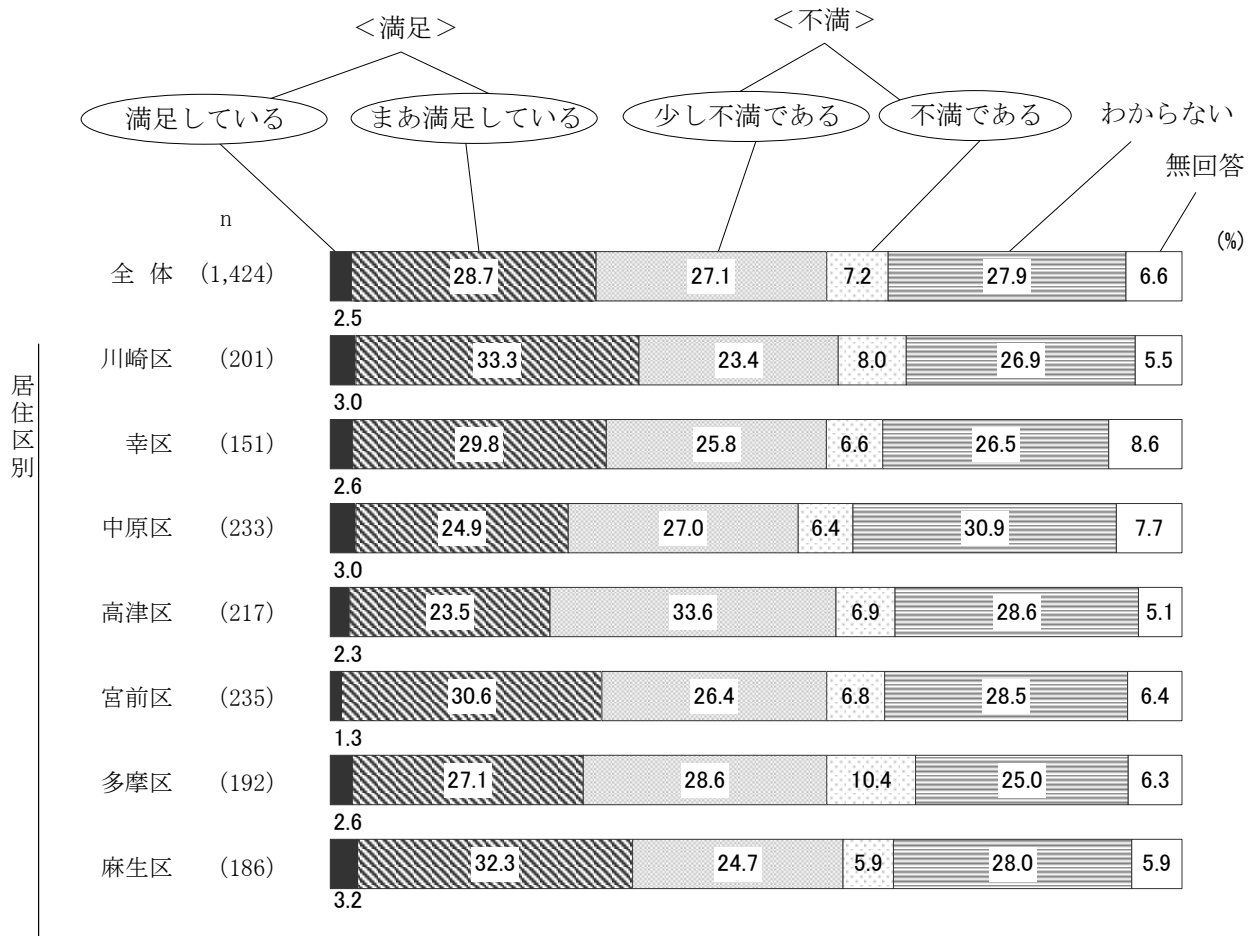
施策や事業の総合的な満足度は、「満足している」(2.5%)と「まあ満足している」(28.7%)をあわせた<満足>は、31.2%となっている。一方、「少し不満である」(27.1%)と「不満である」(7.2%)をあわせた<不満>は、34.3%となっており、<不満>が<満足>を上回っている。(図表4-9)

図表4-10 施策や事業の総合的な満足度(性/年齢別)



性/年齢別では、<満足>は、男女とも70歳以上が4割台と多くなっているが、女性の60歳代は約2割と少なくなっている。一方、<不満>は、女性の60歳代が4割台半ばと最も多くなっている。(図表4-10)

図表4-11 施策や事業の総合的な満足度(居住区別)



居住区別では、<満足>は、川崎区、麻生区が3割台半ばと多くなっている。一方、<不満>は、高津区が4割台前半と多くなっている。(図表4-11)